

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コース 文系）		履修形態	必修	
科目の目標	・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	○ 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ○ 語句の意味、用法を的確に理解し、漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組むことで語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。 ○ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。 ○ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。 ○ 校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。 ○ 個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。				
評価の観点・ 評価の方法	《評価の観点》 【知識・技能】 ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 ※上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。 《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出				
学習方法	① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。				
教科書・教材等	『精選論理国語』『精選論理国語学習課題ノート』三省堂 『新版高校漢字必携』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	論理力と思考力	●思考力と対比して論理力とは何かを考える。	6	・文や文章の組立て方や接続について理解を深めている。
	納得の構造	●論理の組み立てと文章構成の関係について理解する。		・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。
	情報の「メタ化」	●情報の「メタ化」を理解し、思考を整理する方法を考える。		・進んで文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って論理展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について表現している。
5	ぬくみ	●都市生活における自己と他者の関係について考える。	8	・語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
6	ネット上の発言の劣化について	●情報の階層化が進むなかで「言論の自由」の意味について考える。		・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを深めている。
	マルジャーナの知恵	●「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する。	8	・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げている。
	世代間倫理としての環境倫理学	●未来世代への責任という観点から環境問題を考える。		・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。
7,8	人類による環境への影響	●人類史から環境問題を考える。	8	・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。
9	記号を使う動物	●記号としての言語について理解する。	8	・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って内容や構成を的確に捉え表現している。
	言葉がつくる女と男	●言葉とアイデンティティの関係について考える。		・言葉の働きを理解している。
	病と科学	●「痛み」に着目して医療や科学の限界について考える。	8	・書き手の立場や目的を考えながら、内容を深めている。
10	動的平衡	●生命とは「動的平衡」のシステムであるという考え方を理解する。		・進んで言葉の働きを理解し、書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深め、比較して論じようとしている。
	ゲノム編集とiPS細胞	●生命科学の可能性と課題について考える。	8	・文章の中で使うことで、語感を磨き語彙を豊かにしている。
11	ミロのヴィーナス	●ミロのヴィーナスの「魅力」について考える。		・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。
12	空白の意味	●芸術作品における「空白」の意味について考える。	6	・学習の見通しをもって、情報の妥当性信頼性を吟味しながら主張を支える適切な根拠をそろえ、論述しようとしている。
1	「なぜ」に答えられない科学	●科学の知とはどのようなものかを理解する。	6	・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。
2	AI時代の「人間」	●AIとの対比から「人間」についての理解を深める。	8	・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。
3	「市民」のイメージ	●アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える。	6	・進んで理解を深め、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直し、考察した内容をまとめようとしている。
	「である」と「する」こと	●「市民社会」における権利と義務について考える。	8	・使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
				・資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。
				・資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述しようとしている。
				・使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
				・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。
				・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース 理系）		履修形態	必 修	
科目の目標	・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	○ 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ○ 語句の意味、用法を的確に理解し、漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組むことで語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。 ○ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。 ○ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。 ○ 校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。 ○ 個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。				
評価の観点・ 評価の方法	《評価の観点》 【知識・技能】 ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 ※上記三つの観点別に A・B・C の三段階で評価し、総合的に評定を行う。 《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出				
学習方法	① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。				
教科書・教材等	『精選論理国語』『精選論理国語学習課題ノート』三省堂 『新版高校漢字必携』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	論理力と思考力	●思考力と対比して論理力とは何かを考える。	6	・文や文章の組立て方や接続について理解を深めている。
	納得の構造	●論理の組み立てと文章構成の関係について理解する。		・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。
	情報の「メタ化」	●情報の「メタ化」を理解し、思考を整理する方法を考える。		・進んで文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って論理展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について表現している。
5	ぬくみ	●都市生活における自己と他者の関係について考える。	8	・語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
6	ネット上の発言の劣化について	●情報の階層化が進むなかで「言論の自由」の意味について考える。		・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを深めている。
	マルジャーナの知恵	●「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する。	8	・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げている。
	世代間倫理としての環境倫理学	●未来世代への責任という観点から環境問題を考える。		・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。
7,8	人類による環境への影響	●人類史から環境問題を考える。	8	・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。
9	記号を使う動物	●記号としての言語について理解する。	8	・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って内容や構成を的確に捉え表現している。
	言葉がつくる女と男	●言葉とアイデンティティの関係について考える。		・言葉の働きを理解している。
	病と科学	●「痛み」に着目して医療や科学の限界について考える。	8	・書き手の立場や目的を考えながら、内容を深めている。
10	動的平衡	●生命とは「動的平衡」のシステムであるという考え方を理解する。		・進んで言葉の働きを理解し、書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深め、比較して論じようとしている。
	ゲノム編集とiPS細胞	●生命科学の可能性と課題について考える。	8	・文章の中で使うことで、語感を磨き語彙を豊かにしている。
11	ミロのヴィーナス	●ミロのヴィーナスの「魅力」について考える。		・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。
12	空白の意味	●芸術作品における「空白」の意味について考える。	6	・学習の見通しをもって、情報の妥当性信頼性を吟味しながら主張を支える適切な根拠をそろえ、論述しようとしている。
1	「なぜ」に答えられない科学	●科学の知とはどのようなものかを理解する。	6	・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。
2	AI時代の「人間」	●AIとの対比から「人間」についての理解を深める。	8	・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。
3	「市民」のイメージ	●アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える。	6	・進んで理解を深め、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直し、考察した内容をまとめようとしている。
	「である」と「する」こと	●「市民社会」における権利と義務について考える。	8	・使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
				・資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。
				・資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述しようとしている。
				・使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
				・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。
				・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	3 単位
対象学年	第 2 学年(進学コース)		履修形態	必 修	
科目の目標	・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	○ 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ○ 語句の意味、用法を的確に理解し、漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組むことで語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。 ○ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。 ○ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。 ○ 校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。 ○ 個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。				
評価の観点・ 評価の方法	《評価の観点》 【知識・技能】 ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 ○ 上記三つの観点別に A・B・C の三段階で評価し、総合的に評定を行う。 《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出				
学習方法	① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。				
教科書・教材等	『標準論理国語』『標準論理国語学習課題集』 第一学習社 『チャレンジ常用漢字』 第一学習社 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 国語辞典				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	「進化が導き出した答え」	・生物の進化における多様化について理解し、それを人間の生き方に照らして考えを深める。	9	・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。 ・本文を粘り強く読み、理解しようとしている。
5	「新しい地球観」	・オーサグラフ地図の特徴を捉え、筆者が述べる「新しい世界観」との関連について考察する。	12	・本文の内容を人間の世界に当てはめた場合の生き方について粘り強く考え、文章にまとめて発表しようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。情報を階層化して整理する。
6	「数え方で磨く日本語」	・具体例をもとに日本語のものの数え方の性質や文化的特徴を理解し、日本語感覚を磨く。	12	・構成と論理の展開を捉え要旨をまとめようとしている。 ・本文や図版を照合し、筆者の主張を捉えようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。
7	「名所絵はがきの東西」	・絵はがきを例に筆者が東西の自然観をどのように捉えているか把握し、自分の考えを深める。	12	・積極的に文末表現に話し言葉を挿入した効果について説明しようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。
8	「情けは人の…」	・本文中に示された言葉の正しい意味を知るとともに、言葉に対する筆者の姿勢を読み取る。	12	・構成と論理の展開を捉え要旨をまとめようとしている。 ・「日本人の自然観」を捉え、考えをまとめようとしている。
9	「犬も歩けば棒に当たる」	・一つのことわざについて複数の解釈を提示する文章を読んで、日本語の多様性について理解を深める。	12	・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・情報と情報との関係から情報を階層化して整理する。
10	「バラと通貨はどう違う？」	・本文中で通貨と対比されているものの性質を把握し、筆者が述べる通貨の本質を理解する。	12	・本文中の表現を指摘し、積極的に筆者の表現の工夫について考えようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。
11	「ヒトはなぜヒトになったか」	・因果関係を解き明かしていく論理構成の手順を把握しヒトの進化過程を理解する。	12	・個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。
12	「共同性の幻想」	・「同調圧力」がはたらく社会的背景を理解し、現代における人間関係のあり方について考察する。	9	・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。語句の量を増やし語彙を豊かにする。
1	「鏡としての他者」	・文章構造をもとに筆者の主張を読み取り、他者が自己に与える影響を考える。	9	・筆者の主張の理由について本文を読んで考えを深め、自分に引き付けて具体的なあり方を考えている。
2	「法に関わる文章を読み比べる」	・二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。	12	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。指示語の効果を考え、説明する。 ・本文の構成と論理の展開を捉え要旨をまとめようとしている。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。
3	「ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する」	・実用文には書き方のルールがあり、場面や目的に応じて書き方に工夫が必要な点を理解する。	9	・異なる形式で書かれた複数の実用的な文章を粘り強く読み、解釈したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。 ・文章の構成や表現のしかたについて、多面的・多角的な視点から評価する。 ・実用文の書き方が場面や目的によって異なることを積極的に把握しようとしている。

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	3 単位
対象学年	第2学年(キャリアコース)		履修形態	必修	
科目の目標	・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	○ 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ○ 語句の意味、用法を的確に理解し、漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組むことで語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。 ○ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。 ○ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。 ○ 校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。 ○ 個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。				
評価の観点・ 評価の方法	《評価の観点》 【知識・技能】 ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 ○ 上記三つの観点別にA・B・Cの三段階で評価し、総合的に評定を行う。 《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出				
学習方法	① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。				
教科書・教材等	『標準論理国語』『標準論理国語学習課題集』 第一学習社 『チャレンジ常用漢字』 第一学習社 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 国語辞典				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	「進化が導き出した答え」	・生物の進化における多様化について理解し、それを人間の生き方に照らして考えを深める。	9	・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。 ・本文を粘り強く読み、理解しようとしている。
5	「新しい地球観」	・オーサグラフ地図の特徴を捉え、筆者が述べる「新しい世界観」との関連について考察する。	12	・本文の内容を人間の世界に当てはめた場合の生き方について粘り強く考え、文章にまとめて発表しようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。情報を階層化して整理する。
6	「数え方で磨く日本語」	・具体例をもとに日本語のものの数え方の性質や文化的特徴を理解し、日本語感覚を磨く。	12	・構成と論理の展開を捉え要旨をまとめようとしている。 ・本文や図版を照合し、筆者の主張を捉えようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。
7	「名所絵はがきの東西」	・絵はがきを例に筆者が東西の自然観をどのように捉えているか把握し、自分の考えを深める。	12	・積極的に文末表現に話し言葉を挿入した効果について説明しようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。
8	「情けは人の…」	・本文中に示された言葉の正しい意味を知るとともに、言葉に対する筆者の姿勢を読み取る。	12	・構成と論理の展開を捉え要旨をまとめようとしている。 ・「日本人の自然観」を捉え、考えをまとめようとしている。
9	「犬も歩けば棒に当たる」	・一つのことわざについて複数の解釈を提示する文章を読んで、日本語の多様性について理解を深める。	12	・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・情報と情報との関係から情報を階層化して整理する。
10	「バラと通貨はどう違う？」	・本文中で通貨と対比されているものの性質を把握し、筆者が述べる通貨の本質を理解する。	12	・本文中の表現を指摘し、積極的に筆者の表現の工夫について考えようとしている。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。
11	「ヒトはなぜヒトになったか」	・因果関係を解き明かしていく論理構成の手順を把握しヒトの進化過程を理解する。	12	・個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
12	「共同性の幻想」	・「同調圧力」がはたらく社会的背景を理解し、現代における人間関係のあり方について考察する。	9	・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。
1	「鏡としての他者」	・文章構造をもとに筆者の主張を読み取り、他者が自己に与える影響を考える。	9	・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。語句の量を増やし語彙を豊かにする。
2	「法に関わる文章を読み比べる」	・二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。	12	・筆者の主張の理由について本文を読んで考えを深め、自分に引き付けて具体的なあり方を考えている。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。指示語の効果を考え、説明する。
3	「ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する」	・実用文には書き方のルールがあり、場面や目的に応じて書き方に工夫が必要な点を理解する。	9	・本文の構成と論理の展開を捉え要旨をまとめようとしている。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。
				・異なる形式で書かれた複数の実用的な文章を粘り強く読み、解釈したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。
				・文章の構成や表現のしかたについて、多面的・多角的な視点から評価する。 ・実用文の書き方が場面や目的によって異なることを積極的に把握しようとしている。

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2 単位
対象学年	第2 学年（特別進学コース 文系）		履修形態	必 修	
科目の目標	・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	○ 文学的な文章を読み、あらすじや場面の遷移、人物の心情変化を的確にとらえる。 ○ 文章を読み込むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。語句の意味、用法を的確に理解し、反復学習（小テストも含む）に取り組み語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。 ○ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。 ○ 校内読書感想文・体験記コンクールなど教科書以外の書物に接する機会を捉えて、感想文などの文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。 ○ 個々の進度に合わせて、就職試験・入学試験に対応した演習問題に取り組む。				
評価の観点・ 評価の方法	《評価の観点》 【知識・技能】 ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 ※上記三つの観点別に A・B・C の三段階で評価し、総合的に評定を行う。 《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況・授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出				
学習方法	① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。				
教科書・教材等	『精選文学国語』『精選文学国語学習課題ノート』三省堂 『新版高校漢字必携』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	「夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について」 「詩はいつでも近いところにある」	●物語の力について考える ●詩の言葉の特徴を理解する	6	・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。
5	「山月記」	●会話と地の文の關係に着目して、人物像を把握する。	8	・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。
6	「少年という名前のメカ」	●小説の寓意について考える。	8	・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
7,8	「今日」「わたしを束ねないで」「帰途」 「木に花咲き 一短歌十五首」	●表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれへの理解を深める ●それぞれの短歌に詠まれた情景や心情を理解する	8	・ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ・文章の種類を踏まえて内容や構成、展開、描写の仕方、文体の特徴や効果などを他の作品と比較するなどして考察している。
	「ひよこの眼」	●回想形式に留意して、小説の内容を理解する	8	・言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。
9	「神様」	●非現実的な設定をもつ小説の魅力について考える	8	・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。
10	「ありときりぎりす」 〔参考〕セミとアリ	●翻案小説の魅力について考える	8	・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、他の作品と比較しながら文体の特徴や効果について考察している。
11	「戯曲の中の対話」 「〔参考〕平田オリザ『東京ノート』より」	●芝居のせりふと日常会話、戯曲の対話と小説の会話の違いを理解する	8	・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色についての評価を通して、内容を解釈している。
	「戯曲 書く女(抄)」	●読み合わせを通して戯曲の言葉の特徴を理解する		・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
12	「こころ」	●小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する	6	・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。
1	「捨てない女」	●作品世界が現代に投げかけている問題について考える	6	・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読力)
2	「文学の仕事」 「お砂糖とスパイスと爆発的な何か」	●「文学の力」について考える ●批評について理解を深める	6	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。
3	「小説はどう読めばいいのか？」 —太宰治『斜陽』の語り口	●語り口の分析を通して小説の読み方の理解を深める	9	・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ) ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深い共感、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	○古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ○文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確に捉える。文章の表現上の特色を理解し、優れた表現を味わう。 ○作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを豊かにする。 ○音読・朗読・暗唱などを通して古典の文章に親しみ、作品の読解、鑑賞を深める。 ○大学等入学試験に向けて問題演習を行う。				
評価の観点・ 評価の方法	《評価の観点》 【知識・技能】 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに我が国の言語文化に対する理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者と関わり伝え合う力を高め自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。 ○上記三つの観点別に A・B・C の三段階で評価し、総合的に評定を行う。 《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出				
学習方法	①家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。音読も行う。 ②授業ではキーワードに着目し、現代語訳も行いながら本文の流れが分かるようにノートをまとめる。古典に関する知識を広げるために調べ学習を行う。 ③学習の過程を通して文法事項を理解し、身につける。				
教科書・教材等	『精選古典探究 古文編』『精選古典探究 漢文編』 三省堂 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 『古文単語マスター333』 数研出版 『新明説漢文』『新明説総合古典文法』 尚文出版 古語辞典・漢和辞典				

年 間 授 業 計 画				
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文 説話 ・十訓抄	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	6	・古典の文の成分や順序、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。
5	・宇治拾遺物語 ・古今著聞集 随筆	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する	8	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら、古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
6	・徒然草・方丈記 物語 ・伊勢物語 ・大和物語	・人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。	8	・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
7	漢文	・学習目標を確認し、考えたことを自分の言葉でまとめる。	8	・和歌の内容と文章の関係をふまえ、登場人物の心情を読み取ること。
8	故事成語 ・「画竜点睛」他 漢詩 ・「鹿柴」他 古文 随筆	・現代の文章で使われている故事成語を探し、その言葉の由来を調べて発表する。	8	・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳すること。
9	・枕草子 物語 ・源氏物語・大鏡 日記文学	・漢詩の形式・句型を学び、内容を把握する。	8	・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、中国文化との関係について理解を深めること。
10	・更級日記・建礼 門院右京大夫集	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	8	・語句や表現に注意して文脈をとらえること。
11	軍記 ・平家物語 漢文 史伝 ・鴻門之会 ・四面楚歌 ・項王最後 文章 ・漁父辞 ・春夜宴桃李園	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	8	・表現に注意して文脈をとらえ、作者の物語に対する心情をまとめていること。
12	序 思想 ・論語、老子他 古文 伝承 ・古事記 和歌・連歌・俳諧	・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	8	・和歌に描かれている情景を、表現に注意して読み、登場人物の状況をとらえる手掛かりとしている。
1	・桃花源記 ・売鬼 日本の漢詩文 ・「自詠」他	・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	8	・敬語の用法・敬意の対象を理解して現代語訳していること。
2	漢文 小説 ・桃花源記 ・売鬼 日本の漢詩文 ・「自詠」他	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	6	・歌の表現上の特徴を理解し、現代語訳し、主題をとらえていること。
3	・和歌・歌謡	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	6	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
		・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	6	・語句や表現に注意して文脈をとらえ、登場人物の心情を読み取っていること。
		・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	6	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
		・語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	6	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら、古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
		・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	6	・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
			6	・敬語の用法・敬意の対象を理解して現代語訳していること。
			6	・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳すること。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修	
科目の目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深い共感、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	○古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ○文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確に捉える。文章の表現上の特色を理解し、優れた表現を味わう。 ○作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを豊かにする。 ○音読・朗読・暗唱などを通して古典の文章に親しみ、作品の読解、鑑賞を深める。 ○大学等入学試験に向けて問題演習を行う。				
評価の観点・ 評価の方法	《評価の観点》 【知識・技能】 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに我が国の言語文化に対する理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者と関わり伝え合う力を高め自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。 ○上記三つの観点別に A・B・C の三段階で評価し、総合的に評定を行う。 《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出				
学習方法	①家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。音読も行う。 ②授業ではキーワードに着目し、現代語訳も行いながら本文の流れが分かるようにノートをまとめる。古典に関する知識を広げるために調べ学習を行う。 ③学習の過程を通して文法事項を理解し、身につける。				
教科書・教材等	『精選古典探究 古文編』『精選古典探究 漢文編』 三省堂 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 『古文単語マスター333』 数研出版 『新明説漢文』『新明説総合古典文法』 尚文出版 古語辞典・漢和辞典				

年 間 授 業 計 画				
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文 説話 ・十訓抄	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	6	・古典の文の成分や順序、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。
5	・宇治拾遺物語 ・古今著聞集 随筆	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する	8	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら、古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
6	・徒然草・方丈記 物語 ・伊勢物語 ・大和物語	・人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。	8	・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
7	漢文	・学習目標を確認し、考えたことを自分の言葉でまとめる。	8	・和歌の内容と文章の関係をふまえ、登場人物の心情を読み取ること。
8	故事成語 ・「画竜点睛」他 漢詩 ・「鹿柴」他 古文 随筆	・現代の文章で使われている故事成語を探し、その言葉の由来を調べて発表する。	8	・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳すること。
9	・枕草子 物語 ・源氏物語・大鏡 日記文学	・漢詩の形式・句型を学び、内容を把握する。	8	・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、中国文化との関係について理解を深めること。
10	・更級日記・建礼 門院右京大夫集 軍記 ・平家物語 漢文	・内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	8	・語句や表現に注意して文脈をとらえること。
11	・漁父辞 ・春夜宴桃李園 序 思想 ・論語、老子他 古文 伝承 ・古事記 和歌・連歌・俳諧	・語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	8	・表現に注意して文脈をとらえ、作者の物語に対する心情をまとめていること。
12	・和歌・歌謡	・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	8	・和歌に描かれている情景を、表現に注意して読み、登場人物の状況をとらえる手掛かりとしている。
1	漢文 小説 ・桃花源記 ・売鬼 日本の漢詩文 ・「自詠」他	・内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	6	・敬語の用法・敬意の対象を理解して現代語訳していること。
			6	・歌の表現上の特徴を理解し、現代語訳し、主題をとらえていること。
			6	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
			6	・語句や表現に注意して文脈をとらえ、登場人物の心情を読み取っていること。
			6	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
			6	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら、古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
			6	・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
			6	・敬語の用法・敬意の対象を理解して現代語訳していること。
			6	・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳すること。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深い共感、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習内容の概要	○古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ○文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確に捉える。文章の表現上の特色を理解し、優れた表現を味わう。 ○作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを豊かにする。 ○音読・朗読・暗唱などを通して古典の文章に親しみ、作品の読解、鑑賞を深める。 ○大学等入学試験に向けて問題演習を行う。				
評価の観点・ 評価の方法	《評価の観点》 【知識・技能】 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに我が国の言語文化に対する理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者と関わり伝え合う力を高め自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。 ○上記三つの観点別に A・B・C の三段階で評価し、総合的に評定を行う。 《評価の方法》※以下を考慮し総合的に行う ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート・レポート提出				
学習方法	①家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。音読も行う。 ②授業ではキーワードに着目し、現代語訳も行いながら本文の流れが分かるようにノートをまとめる。古典に関する知識を広げるために調べ学習を行う。 ③学習の過程を通して文法事項を理解し、身につける。				
教科書・教材等	『標準古典探究』 第一学習社 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 古語辞典・漢和辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	「古本説話集・十訓抄・古今著聞集」	○平安朝の著名な人物にまつわる説話を読み、機転や面白さを味わう。	6	・平安朝の著名な人物にまつわる説話を読み、文章の種類や古典特有の表現に注意し展開や内容を的確に捉える。 ・文語のきまりについて理解を深める。
5	「徒然草・方丈記」	○作者が抱いた人の世に対する思いや観察眼を通して、ものの見方を深める。	8	・作品に表れた中世的なものの見方、考え方に対して、学習の見直しをもって理解を深めようとしている。 ・和漢混淆文の随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意し、構成や展開、内容を的確に捉える。
6	「伊勢物語・竹取物語」	○物語の中で和歌が果たす役割を押さえ、場面設定や心理描写を読み味わう。	8	・物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・文語のきまりについて理解を深める。
7	「沙石集・宇治拾遺物語」	○さまざまな説話の題材に触れながら、文章で訴えられる内容を読み味わう。	8	・説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。
8	「枕草子」	○作者が取り上げる事物や対象、経験などから、当時の人のものの見方や考え方に触れる。	8	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・作者が取り上げている事物や対象、経験などを通して、当時の人のものの見方や考え方に触れる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
9	「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集・春夏秋冬」	○わが国の伝統文化の一つである和歌の表現の特色を理解し、黎明期の和歌を鑑賞する。	8	・和歌という文章の種類や古典特有の表現、修辞に理解を深め、内容を的確に捉える。 ・文語のきまりについて理解を深めている。
10	「助長・嬰逆鱗・画竜点睛・推敲・朝三暮四」	○現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。	8	・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深めている。 ・故事成語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。
11	「水魚之交・赤壁之战・死諸葛走生仲達」	○現代まで読み継がれる漢文の長編物語を読み場面展開や登場人物の心境を読み取る。	8	・史伝という文章の種類を踏まえて構成や展開を的確に捉える。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深めている。
	「中国の詩」	漢詩の表現や理解を深める。		・訓読のきまりについて理解を深めている。 ・漢詩の表現や技法への理解を深めるとともに、作品にこめられた作者の思いを進んで読み取ろうとしている。
12	「日本の詩」	・漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げる。	6	・漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えている。
1		・日本の各時代によまれた漢詩を鑑賞し、作者が漢詩に託した自然や人事に対する思いを通して考えを深める。	6	・今までの学習を生かして漢詩のきまりを押さえ、よまれた心情を積極的に説明しようとしている。
2			8	・漢詩が我が国の文化に与えた影響について積極的に理解しようとしている。
3	「織女・売鬼・買粉児」	・小説という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。	6	・小説という文章の種類についての特徴に対する理解を踏まえ、それをふまえて、構成や展開を的確に捉えようとしている。 ・小説を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養っている。

教科名	国語	科目名	国語表現	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	(1) 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解すること。 (2) 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けること。 (3) 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 (4) 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めること。 (5) 省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うこと。				
評価の観点・ 評価の方法	(1)評価の観点 a. 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b. 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 (2)評価方法は次の通りとする。 ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 ⑤ポートフォリオ				
学習方法	① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。 ④グループ活動や表現活動に積極的に参加する。				
教科書・教材等	国語表現 大修館書店 国語表現 基礎練習ノート 大修館書店				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	言葉と表記	表記の決まりを意識し、正しく書く。 漢字や慣用表現を正しく使う。	6	・言葉には、自己と他者の理解を深める働きがあることを理解し、自分の思いや考えを多彩に表現するために適切な言葉に関する知識を広げ、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・書き言葉の特徴について理解を深め、係り受けを整えたり文末表現を統一したりすることについて理解し、表現を工夫している。	
5	相手に応じた言葉遣い	係り受けについて理解する。 文末表現の統一について理解する。	8	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解し、適切に使い分けている。 ・目的や手段に応じた適切でわかりやすい文を書く方法を理解し、表現全体を整えたり、読点の打ち方を工夫したりしている。	
6	自己紹介ゲーム	話し言葉と書き言葉の違いや、敬語について正しい知識をもつ。 長すぎる文を避け、読点を適切に打つなど平易な文にする方法を理解する。	8	・自分の思いや考えを多彩に表現するために、接続表現の種類や働きを知り、文章の中で適切に用いている。 ・話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、場に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、活用できている。	
7・8	言葉のストレッチ体操	聞くこと、話すこと、伝え合うことを見つめ直し、新たな発見をする。コミュニケーションの楽しさを感じる。	8	・話し言葉や非言語的表現の特徴と役割について理解を深め、目的や場面に応じた適切な表現を理解している。	
10	絵や写真を見て書く	図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書く。	8	・伝えたい情報を整理し順序立てて、事象を的確に描写・説明するなど、表現のしかたを工夫している。	
11	マイニュース記事を書く	5W1Hを意識し、事実と意見を区別してニュース記事を書く。	8	・目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、伝えたいことを明確にする。	
12	小論文とは何か	小論文の基本的な書き方を理解する。 意見を筋道を立てて書く。	8	・小論文の特徴、構成や展開のしかたなどについて理解を深めている。	
1	文章を読み取って書く	文章の要旨をつかむための方法を理解する。	8	・目的や意図に応じて、読み取った文章の要旨から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫している。	
2	統計取材を読み取って書く	統計資料から読み取ったことをふまえて論点を整理する。	8	・統計資料から読み取れることをもとに小論文を書く活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	
3	発想を広げて書く	発想を広げるための方法を理解し、活用して、小論文を書く。	8	・目的や意図に応じて発想を広げるための方法を理解し、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	
4	レポートを書く	レポートの基本的な書き方を理解し、説得力のあるレポートをまとめる。	8	・調べたことをレポートにまとめることに興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	
5	論文を書くために	論文執筆の進め方や引用の方法、参考文献や注の示し方を理解する。	8	・事象を的確に描写したり説明したり、引用の方法や参考文献の示し方や注の付け方などに留意するなど、表現を工夫している。	
6	通信文を書き分ける	さまざまな通信文の形式を理解し、適切な形式を選び、通信文を書く。	8	・通信文ごとの形式の違いについて理解を深め、伝え合う目的や場面に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	
7	電話を使いこなす	初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。	6	・電話におけるマナーを意識したやりとりを工夫したりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。	
8	電子メールを活用しよう	電子メールの特徴を知り、活用方法や留意点を理解する。	6	・電子メールの特徴を理解し、注意点や適切な表現のしかたを意識して電子メールを送っている。	
9	ネット社会との付き合い方	ネットを用いたコミュニケーションの特徴と使用上の留意点を理解する。	6	・ネット社会との付き合い方に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理している。	
10	ネットを活用した情報収集	インターネットでの情報の検索のしかたと、その注意点について理解する。	6	・自分の考えを明確にし、根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、表現のしかたを工夫している。	
11	メディアと情報	メディアごとに情報の伝え方が異なることを理解する。	6	・さまざまなメディアの種類や特徴、メディアリテラシーをもとにした情報との向き合い方について理解を深めている。	
12	自分を見つめて	自分の特長を端的に表現し、事実をふまえて、効果的な自己PRをする。	8	・自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者と話し合いながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2 単位
対象学年	2 学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、日本と世界に関する基本的な知識の習得を重点的におこなった上で、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動へと発展させる。				
学習内容の概要	日本地理や世界地理に関する基本的な知識を習得した上で、以下のようなテーマについて主体的に学ぶ。 ・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 ・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。				
評価の観点・ 評価の方法	（１）知識・技能 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。 （２）思考・表現・判断 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 （３）主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。 3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。				
教科書・教材等	教科書『地理総合』（第一学習社）／『新詳高等地図』（帝国書院） 副教材『地理総合ノート』（第一学習社） 各種のプリント、配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	中学の復習	・日本の都道府県 ・世界の主要な国々	6	・日本の都道府県や世界の主要国の名称や位置について正確に理解する。	
5	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	①目的地への行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図⑦地理情報システムの活用	8	・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、時差のしくみについて確認する。	
6	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	8	・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。	
7・8			8		
9	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候 ③「衣」から見る世界 ④「食」から見る世界 ⑤「住」から見る世界 ⑥暮らしを豊かにする産業 ⑦宗教と人々の暮らし ⑧暮らしを楽しむための文化 ⑨多様性に富んだ世界の人々との共生	8	・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する	
10			8		
11			8		
12	2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して	①持続可能な開発目標（SDGs）②地球的課題の地理的な側面 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題	6	・5つのPの枠組みを活用して、持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。	
1			6		
2			8		
3			6		

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2 単位
対象学年	2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修	
科目の目標	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、日本と世界に関する基本的な知識の習得を重点的におこなった上で、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動へと発展させる。				
学習内容の概要	日本地理や世界地理に関する基本的な知識を習得した上で、以下のようなテーマについて主体的に学ぶ。 ・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 ・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。				
評価の観点・ 評価の方法	（１）知識・技能 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。 （２）思考・表現・判断 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 （３）主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。 3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。				
教科書・教材等	教科書『地理総合』（第一学習社）／『新詳高等地図』（帝国書院） 副教材『地理総合ノート』（第一学習社） 各種のプリント、配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	中学の復習	・日本の都道府県 ・世界の主要な国々	6	・日本の都道府県や世界の主要国の名称や位置について正確に理解する。	
5	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	①目的地への行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図⑦地理情報システムの活用	8	・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、時差のしくみについて確認する。	
6	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	8	・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。	
7・8			8		
9	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候 ③「衣」から見る世界 ④「食」から見る世界 ⑤「住」から見る世界 ⑥暮らしを豊かにする産業 ⑦宗教と人々の暮らし ⑧暮らしを楽しむための文化 ⑨多様性に富んだ世界の人々との共生	8	・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する	
10			8		
11			8		
12	2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して	①持続可能な開発目標（SDGs）②地球的課題の地理的な側面 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題	6	・5つのPの枠組みを活用して、持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。	
1			6		
2			8		
3			6		

教科名	地理歴史	科目名	地理探究	単位数	2 単位
対象学年	2 学年（進学・キャリア グローバル）		履修形態	必修	
科目の目標	主体的・対話的で深い学びを実現するために、現代世界の世界的知識を系統地理的、地誌的な探究を学ぶ学習を通して、地理的な見方や考え方、地理的技能、地図帳の利用の方法を身につける。学習を通して地球的視野から現代世界の諸課題について主体的に考え、行動する自覚と態度を養う。				
学習内容の概要	・世界の農業・工業の成り立ちや立地・交通・情報通信・貿易・商業・観光を取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて考察させ、基礎的・基本的知識を習得させる。世界や日本の食料問題・工業の課題・エネルギー問題について世界的視野に留意して概観させ、形成要因や課題解決の取り組みについて考察させる。 ・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げて、形成要因に関して考察させる。世界の人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら、日本の人口問題とも関連させて考察させる。 ・村落の立地と形態、都市の発達と変容に関して考察させて、村落・都市に関する基礎的・基本的知識を習得させる。 ・世界の衣食住を取り上げ、それらの分布と特色を理解させ、地域性との関連を考察させて、基礎的・基本的知識を習得させる。 ・世界の言語と宗教の分布を理解させ、言語・宗教と社会との関連を考察させて、基礎的・基本的知識を習得させる。 ・民族と国家との関連を理解させ、基礎的・基本的知識を習得させる。				
評価の観点・ 評価の方法	（１）知識・技能 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （２）思考・表現・判断 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 （３）主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。 3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度（質問に対して真剣に考える姿勢等も含む）・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	現代世界は、グローバル化の進展に伴い国や地域が結びつき、相互依存関係を強めています。地球環境や国際情勢は日々変化を続け、身近な生活空間から、国家規模、地球規模に至るまで多くの課題を抱えています。これらの諸課題の解決策について、地理的な見方・考え方をを用いて考察していきます。授業プリントは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。				
教科書・教材等	教科書『地理探究』（帝国書院）／『新詳高等地図』（帝国書院） 副教材『新詳地理探究演習ノート』（帝国書院） 各種のプリント、配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	第1部 第1章	地形の成因と地球表面の起伏／大地形／小地形／世界の気候気分／異常気象／日本の地形・気候／防災	6	・世界の大地形、小地形、気候や生態系にみられる傾向や規則性を理解し、私たちの生活や災害等の地球的課題とどのような関係があるのかについて考察させる。	
5	1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境		8		
6	4節 地球環境問題 第2章	地球環境問題と解決に向けた取り組み／農業の発達と分布／農業の現状と課題／林業／水産業	8	・地球環境問題を解決し、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくるための考え方を身につける。 ・世界の農産物の流通や農業、林業、水産業の分布や発達について、地図を利用しながら理解する。	
7・8	1節 農林水産業 2節 食糧問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業	食糧問題／エネルギー資源の種類と利用／電力／鉱産資源の種類と利用／エネルギー問題 工業の発達・種類・立地	8	・飽食や飢餓といった食料分配の偏りの地域的特徴について理解する。 ・エネルギー、鉱産資源の分布を理解し、生活や産業への利用について理解する。生産や消費の不均衡をなくす取り組みについて考察する。	
9	6節 第3次産業	／世界の工業地域／工業の現状と課題／経済発展と第3次産業／商業の現状と変化	8	・世界と日本の工業の現状について学び、拡大する第3次産業の現状を理解する。	
10	第3章 1節 交通・通信 2節 観光	世界を結ぶ交通／情報通信の発達／余暇と観光／貿易と格差／貿易の自由化と経済連携	8	・交通と通信の発達によって変化した社会や経済について理解し交通網や通信網の地域間格差について考えさせる。	
11	3節 貿易と経済圏 第4章 1節 人口		8	・交通と通信の発達による観光や貿易の特徴や課題について理解する。 ・増加を続ける世界人口について、国や地域による増減の違い、年齢別構成について理解する。	
12	2節 人口問題 3節 村落と都市	／都市の成立と形態・機能／都市圏の拡大と都市の構造	6	・村落や都市の発展の過程について考察する。立地や変容について、傾向や地域性について理解する。	
1	4節 都市居住問題	発展途上国の都市・居住問題／先進国の都市・居住問題／日本の都市・居住問題	6	・世界の都市が持続的に発展するための課題について考える。日本の都市課題解決にむけた取り組みについて考察する。	
2	第5章 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題	世界の衣服と食生活／住居と衣食住の画一化／世界の民族・言語／世界の宗教／民族問題／多文化の共生に向けた取り組み／現代世界と国家・領土問題	8	・衣食住の伝統的生活文化と自然環境や社会環境などの地域的特色との関係を理解する。 ・様々な言語を話し、多様な宗教を信仰する世界の民族の独自性について学び、各地の民族問題と多文化共生の取り組みについて考察する。	
3	3節 国家の領域と領土問題		6	・国家の領域について学び、世界の領土問題と解決への取り組みについて理解する。	

教科名	地理歴史	科目名	日本史探究	単位数	3単位
対象学年	第2学年（特別進学コース文系）		履修形態	選択	
科目の目標	日本という国の政治、社会、文化などは、どのような経緯で現在の形を作りあげてきたのか。この答えを考えると、当然であるが日本の歴史を学習しなければならない。 日本史という科目は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。 また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育てたい。				
学習内容の概要	①旧石器文化から縄文文化へと進んだ日本列島の文化が、中国や朝鮮半島から、農耕をはじめとする多くの文化の影響を受け、国家を形成する過程を学ぶ。 ②律令国家の支配領域が一段と拡大する過程や地方政治の変容、摂関政治と国風美術、貴族の生活について理解する。 ③武家政権を確立した源頼朝の後を継いだ北条氏が、承久の乱で朝幕関係を逆転させながら、元寇という対外問題で御家人の信頼を失い内部から崩壊していく過程を理解する。 ④足利政権の成立・発展や、産業の発達などにより民衆が社会を動かす力をつけてきたことを考察する。 ⑤ヨーロッパ人がもたらした鉄砲とキリスト教によって、戦国の世の統一が促進され、鎖国を外交の基本とする徳川政権が展開されたこと、その封建支配や庶民文化の進展を学ぶ。 ⑥江戸幕府の財政難（内圧）に対する幕政改革や、列強の接近（外圧）に対する対応がいずれもうまくいかず、崩壊していく過程を学ぶ。				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 (2) 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
学習方法	日本史は暗記科目であるが、羅列してある用語を単に覚えるのではなく、いつも「なぜこの事件が起こったのか」を念頭に置き、物事の因果関係を考えつつ理解したい。 そのために、時代ごとの全体像―いくつかの項目の相関関係図―を板書するので、きちんとノートにまとめ、それぞれの時代の特徴や構造をつかむようにして欲しい。 大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、また、近・現代史の出題が増える傾向にある。このような入試に際しても、上記のノートは有効に働くはずであり、活用して欲しい。さらに、入試では、答えを様々な角度から求められる。より多くの問題に取り組むことによって入試対応力を養いたい。				
教科書・教材等	教科書「詳説日本史 日本史探究」（山川出版社） プリント 副教材 Winning COM. -PASS 日本史の整理と演習（とうほう）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	日本文化のあけぼの	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立	9	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。
5	古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	12	ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。
6	律令国家の形成	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	12	律令にもとづく国内統治体制について理解する。 平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。
7	貴族政治の展開	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	12	摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとりて考察する。
8	院政と武士の躍進	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	12	外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。
10	武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退	12	鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。
11	武家社会の成長	4 鎌倉文化 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭	12	伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。 琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。
12		3 室町文化 4 戦国大名の登場	9	庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。
1	近世の幕開け	1 織豊政権 2 桃山文化	9	織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。
2	幕藩体制の成立と展開	1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定	12	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。
3		4 経済の発展 5 元禄文化	9	経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。

教科名	地理歴史	科目名	日本史探究	単位数	2 単位
対象学年	第2 学年 (進学・キャリア ローカルコース)		履修形態	選択	
科目の目標	日本史という科目は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。 また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育ててもらいたい。 今年度は、「原始・古代」と「中世」の室町文化までをあつかう。各時代における政権と外交問題、外国文化の影響なども関連づけながら、社会や文化がどう発展したのかを考察する。				
学習内容の概要	①旧石器文化から縄文文化へと進んだ日本列島の文化が、中国や朝鮮半島から、農耕をはじめとする多くの文化の影響を受け、国家を形成する過程を学ぶ。 ②律令国家としての発展と、平城京の成立、軍事的制圧によって支配領域が拡大する過程、国家仏教の発展や天平文化を理解する。 ③律令国家の支配領域が一段と拡大する過程や地方政治の変容、摂関政治と国風美術、貴族の生活について理解する。 ④支配層であった貴族が、各地に成長してきた武士によってその地位をおびやかされるまでを学ぶ。 ⑤武家政権を確立した源頼朝の後を継いだ北条氏が、承久の乱で朝幕関係を逆転させながら、元寇という対外問題で御家人の信頼を失い内部から崩壊していく過程を理解する。また、政権変動や末法思想などによって当時の人々に精神的変化があったことを、鎌倉仏教の成立を通して考察する。 ⑥足利政権の成立・発展や、産業の発達などにより民衆が社会を動かす力をつけてきたことを考察する。また、明・朝鮮・琉球・蝦夷地などとの関係や、建築や茶華道のように、日本の伝統文化の基礎となった時代であることを学ぶ。				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解しているとともに、調査や諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 (2) 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関する事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。				
学習方法	日本史は暗記科目であるが、羅列してある用語を単に覚えるのではなく、いつも「なぜこの事件が起こったのか」を念頭に置き、物事の因果関係を考えつつ理解したい。 そのために、時代ごとの全体像―いくつかの項目の相関関係図―を板書するので、きちんとノートし、それぞれの時代の特徴や構造をつかむようにして欲しい。				
教科書・教材等	教科書「高等学校 日本史探究 新視点による日本通史とアジア・世界」(清水書院) プリント 参考書 「高等学校 日本史探究 視点による日本通史とアジア・世界 ワークノート」 (清水書院)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1編 原始・古代の日本と東アジア	第1章 黎明期の日本列島と歴史的環境	6	黎明期の日本列島と歴史的環境について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。
5		第2章 歴史資料と原始・古代の展望	8	原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身につける。
6		第3章 古代の国家・社会の展開と画期 第1節 古代国家の形成と東アジア	8	中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。
7		第2節 古代国家の推移と社会の変化	8	中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身につける。
8	第2編 中世の日本と世界	第1章 中世への転換と歴史的環境	8	中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身につける。
9				
10		第3章 中世の国家・社会の展開と画期	8	公武関係の変化、宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。
11		第1節 武家政権の成立と展開	8	武家政権や社会の変容と文化の特色について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。
12	第3編 近世の日本と世界	第2節 武家政権の変容と中世の社会	6	村落や都市の支配の変化、アジアやヨーロッパとの交流などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容について、多面的・多角的に考察し、表現する。
1		第1章 近世への転換と歴史的環境	6	前章の学習を踏まえ、中世からの時代の変化に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
2		第2章 歴史資料と近世の展望	8	
3			6	

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究	単位数	3単位
対象学年	2 学年（特別進学コース文系）		履修形態	選択	
科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要	「世界史へのまなざし」 …この科目の導入。中学校社会科や「歴史総合」の学習を踏まえ、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と歴史との関わりを考察し、世界史学習の意味や意義を理解する。 第Ⅰ部「諸地域の歴史的特質の形成」 文明の成立と古代文明の特質 中央ユーラシアと東アジア世界 南アジア世界と東南アジア世界の展開 西アジアと地中海周辺の世界形成 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第Ⅱ部「諸地域の交流・再編」 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ヨーロッパ世界の変容と展開 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 大交易・大交流の時代 南アジア世界と東南アジア世界の展開 近世ヨーロッパ世界の動向 …「歴史総合」で学習した「資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能」や「問いを表現する」学習などの成果を踏まえて、世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解することができるように、生徒が歴史を捉える切り口である観点に基づいて考察し問いを表現して、課題意識や学習の見通しをもたせつつ、その後の学習へ展開する。				
評価の観点・ 評価の方法	（１）知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開にかかわる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 （２）思考・表現・判断 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 （３）主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 以上のような３つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。				
教科書・教材等	教科書『詳説世界史 世界史探究』（山川出版社） 各種のプリント、配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	世界史へのまなざし	まなざし 1 まなざし 2	9	人類の進化の過程を理解する。 諸事例を通して自らと世界史のつながりについて 考察する	
5	第Ⅰ部 諸地域の歴 史的特質の形成	文明の成立と古代文明の特 質	12	諸資料を比較したり関連付けたりして読み書き、 多面的・多角的に考察し表現することにより古代 文明の歴史的特質を理解する。	
6		中央ユーラシアと東アジア 世界	12	東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象 の背景や原因、結果や影響、諸地域の関りを学習す る。秦・漢と遊牧国家については東アジアの特色を 理解する。	
7・8			12		
		南アジア世界と東南アジア 世界の展開		仏教をヒンドゥー教の成立の過程を理解する。南 アジアと東南アジアの歴史的特質を考察する。	
9		西アジアと地中海周辺の国 家形成	12	西アジアと地中海周辺の国家、キリスト教との成 立とそれらの基盤とした国家の形成を考察する。	
10		イスラーム今日の成立とヨ ーロッパ世界の形成	12	イスラーム教の成立がヨーロッパ世界に及ぼした 影響を考察する。	
11	第Ⅱ部 諸地域の交 流・再編	イスラーム教の伝播と西ア ジアの動向	12	イスラーム教が世界に伝播した過程について理解 し、これまでの学習内容を踏まえて考察する。	
12		ヨーロッパ世界の変容と展 開	9	ヨーロッパの封建社会について理解する。11世 紀以降のヨーロッパ世界の変容について考察す る。	
1		東アジア世界の展開とモン ゴル帝国	9	モンゴル帝国が成立した背景とモンゴル帝国が果 たした役割を多面的・多角的に考察する。	
2・3		大交易・大交流の時代	21	アジア諸地域の動向に関わる諸事象、相互のつな がりを理解する。	
		アジアの諸帝国の繁栄		オスマン帝国の興亡の歴史を理解する。	
		近世ヨーロッパ世界の動向		ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の形成と地球 規模での交易の拡大を理解する。	

教科名	公民	科目名	公共	単位数	2 単位
対象学年	2 学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	1．現代社会の諸問題について、政治・経済・社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に興味関心を高める。 2．資料の収集方法や活用の仕方、レポートのまとめかた、メディアやネットの利用方法など学び方（スキル）を身につける。 3．現代社会について多角的観点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考える。				
学習内容の概要	主に国内の政治・経済に関して以下のような観点から学ぶ。 ①社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現させる。 ②倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ③公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。 ④自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。				
評価の観点・ 評価の方法	（1）知識・技能 現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用の態度識を身につけている。 （2）思考・表現・判断 役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。 （3）主体的に学習に取り組む態度 現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。 3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。家庭学習については、予習は特に必要ないが、テレビ・インターネット・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を確立する。				
教科書・教材等	教科書『詳述公共』（実教出版） 副教材『詳述公共マイノート（実教出版） 各種のプリント 配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	第1編 第1章	生涯における青年期の意義／青年期と自己形成の課題／職業生活と社会参加／現代社会と現代の生き方	6	・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解させる。	
5	社会を作る私たち		8		
6	第2章 人間としてよく生きる	ギリシアの思想／宗教の教え／人間の尊重／個人と社会／主体性の確立／他者の尊重／公正な社会	8		
7・8	第3章 社会とは何か	人間の尊厳と平等／自由・権利と責任・義務	8	・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。	
9	第4章 民主国家における基本原理	人権保障の発展と民主政治の成立／国民主権と民主政治の発展／	8	・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。	
10	第2編 第1章 日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の成立／平和主義とわが国の安全／基本的人権の保障／人権の広がり	8	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が維持されていくことについて理解させる。	
11	第2章 日本の政治機構と政治参加	政治機構と国民生活／人権保障と裁判所／地方自治／選挙と政党／政治参加と世論	8	・よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解させる。	
12	第3章 現代の経済社会	経済社会の形成と変容／市場のしくみ／現代の企業／経済成長と景気変動／金融機関の働き／政府の役割と財政・租税	6	・公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることなどについて理解させる。	
1			6		
2	第4章 経済活動のあり方と国民福祉	日本経済の歩みと近年の課題／中小企業と農業／公害防止と環境保全／消費者問題／労働問題と雇用／社会保障	8	多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題について主体的に考えさせる。	
3			6		

教科名	公民	科目名	公共	単位数	2 単位
対象学年	2 学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	1．現代社会の諸問題について、政治・経済・社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に興味関心を高める。 2．資料の収集方法や活用の仕方、レポートのまとめかた、メディアやネットの利用方法など学び方（スキル）を身につける。 3．現代社会について多角的観点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考える。				
学習内容の概要	主に国内の政治・経済に関して以下のような観点から学ぶ。 ①社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現させる。 ②倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ③公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。 ④自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。				
評価の観点・ 評価の方法	（1）知識・技能 現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用の態度識を身につけている。 （2）思考・表現・判断 役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。 （3）主体的に学習に取り組む態度 現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。 3つの観点について、定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることを習慣化する。授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がける。プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理する。家庭学習については、予習は特に必要ないが、テレビ・インターネット・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を確立する。				
教科書・教材等	教科書『詳述公共』（実教出版） 副教材『詳述公共マイノート（実教出版） 各種のプリント 配信課題 など				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	第1編 第1章	生涯における青年期の意義／青年期と自己形成の課題／職業生活と社会参加／現代社会と現代の生き方	6	・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解させる。	
5	社会を作る私たち		8		
6	第2章 人間としてよく生きる	ギリシアの思想／宗教の教え／人間の尊重／個人と社会／主体性の確立／他者の尊重／公正な社会	8	・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けさせる。	
7・8	第3章 社会とは何か	人間の尊厳と平等／自由・権利と責任・義務	8	・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。	
9	第4章 民主国家における基本原理	人権保障の発展と民主政治の成立／国民主権と民主政治の発展／	8	・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。	
10	第2編 第1章 日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の成立／平和主義とわが国の安全／基本的人権の保障／人権の広がり	8	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が維持されていくことについて理解させる。	
11	第2章 日本の政治機構と政治参加	政治機構と国民生活／人権保障と裁判所／地方自治／選挙と政党／政治参加と世論	8	・よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解させる。	
12	第3章 現代の経済社会	経済社会の形成と変容／市場のしくみ／現代の企業／経済成長と景気変動／金融機関の働き／政府の役割と財政・租税	6	・公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることなどについて理解させる。	
1			6		
2	第4章 経済活動のあり方と国民福祉	日本経済の歩みと近年の課題／中小企業と農業／公害防止と環境保全／消費者問題／労働問題と雇用／社会保障	8	多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題について主体的に考えさせる。	
3			6		

教科名	公民	科目名	政治・経済	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 経済のしくみと企業・政府の役割について理解する。 2. 国際社会の動向と日本の役割を考える。				
学習内容の概要	◎「公共」で履修した内容を含め、経済分野を中心に、時事問題とリンクさせながら、学習を進める。 【現代日本の経済】 ①経済社会の変容 ②現代経済のしくみ ③現代経済と福祉の向上				
評価観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。学習を通して追究した過程や結果を、的確に表現することが出来る。 (2) 思考・表現・判断 現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場を踏まえながら公正に判断している。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。				
学習方法	<家庭学習> *予習は特に必要ありませんが、テレビ・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を身につけるようにしましょう。特に3年生は時事問題など、進学、小論文試験の際は重要になります。自分自身の進路に関する時事問題は、特に注意を払ってください。 <授業> *授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・担当教員の話などメモすることも忘れず、習慣化しましょう。 *授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように努めましょう。 *教科書をしっかり読み、ゴシックの箇所は十分に理解するよう努めましょう。				
教科書・教材等	教科書『詳述 政治・経済』（実教出版） 問題集『大学入試共通テスト対策 チェック&演習 現社／政経』（数研出版）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント *学習項目
4	現代の経済 ①経済社会の変容	1. 経済活動の意義 2. 経済社会の形成と変容	6	アダム＝スミス・ケインズ・マルクス 新自由主義
5	②現代経済の仕組み	1. 市場機構 2. 現代の企業	8	ストックとフロー 銀行・日本銀行・金融政策・財政政策・租税 景気の変動・国民福祉
6		3. 国民所得と経済成長 4. 金融のしくみ	8	
7		5. 財政のしくみ	8	経済の民主化・神武景気・岩戸景気・ オリンピック景気・いざなぎ景気 バブル経済
8	③現代経済と福祉 の向上	1. 経済の停滞と再生 2. 日本の中小企業と農業	8	公害・環境保全・資源、エネルギー問題 農業基本法
9		3. 国民の暮らし 4. 環境保全と公害防止	8	消費者の4つの権利 公害・環境保全
10		5. 労使関係と労働条件の 改善	8	労働三権・労働三法
11		6. 社会保障の役割	8	社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生
12	現代の国際経済	1. 商品・資本の流れと国 際収支 2. 国際経済体制の変化 3. グローバル化と世界金 融 4. 地域経済統合と新興国 の台頭 5. 地球環境とエネルギー 6. 経済協力と人間開発の 課題	6 6 6 8 6	国際収支・外国為替の仕組み 南北問題 F T A・E P A 国際協調・国際経済における日本の役割
1				
2				
3				

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4 単位										
対象学年	第2学年(特別進学コース 文系)		履修形態	必修											
科目の目標	式と証明、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。														
学習内容の概要	(1) 式と証明 1 式と計算, 2 等式と不等式の証明 3次の乗法公式や二項定理及び因数分解の公式を用いて式の展開や因数分解をすることができるようにする。等式や不等式が成り立つことを理解し証明することができる。 (2) 複素数と方程式 1 複素数と2次方程式の解, 2 高次方程式 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則演算をできるようにする。2次方程式の解の種類の判別、解と係数の関係について理解する。因数定理を用いて、高次方程式を解く。 (3) 図形と方程式 1 点と直線, 2 円, 3 軌跡と領域 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を求める。座標平面上の直線、円を方程式で表し、円と直線の位置関係などの考察に活用する。与えられた条件を満たす点の集合と捉え、不等式の表す領域について考える。 (4) 三角関数 1 三角関数, 2 加法定理 角の概念を一般角まで拡張し弧度法を用いて扇形の面積や弧の長さを求める。三角関数のグラフを理解し方程式・不等式を解く。三角関数の加法定理、三角関数の合成について理解しそれらを活用する。 (5) 指数関数と対数関数 1 指数関数, 2 対数関数 指数を正の整数から有理数に拡張する。対数の基本的な性質を理解する。指数関数、対数関数のグラフの特徴を理解し、それらを事象の考察に活用する。 (6) 微分法と積分法 1 微分係数と導関数, 2 関数の値の変化, 3 積分法 導関数を用いてグラフの外形を描くことができるようにする。それを方程式の解や不等式の証明に活用する。定積分を用いて関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める。														
評価の観点・ 評価の方法	<table><tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">定期考査</td><td>授業態度</td></tr><tr><td>提出物・課題</td></tr><tr><td colspan="2">単元テスト・小テスト</td><td>独自の授業の要点・コメント</td></tr></table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度													
定期考査		授業態度													
		提出物・課題													
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント													
学習方法	基本的事項を理解し、それに従って考え取り組む努力、いろいろな考え方を組み合わせて取り組むなどの工夫をすることが大切である。ノートは、問題を解決した際の考え方の筋道が分かるように書くようにする。別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に確保する。まずは、授業を大切に、積極的に先生に質問をするなど、理解が不十分な内容を放置しないことが大切である。家庭では、理解が不十分だと思われる問題に取り組むなど復習を徹底すること。また、問題集による演習を通して理解の定着を図り、学習内容に対する理解を確実なものにすることが大切である。														
教科書・教材等	教科書・・・改訂版 新編数学Ⅱ（数研出版） 副教材・・・改訂版 3TRIAL 数学Ⅱ＋B（数研出版編集部） 増補版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B（数研出版）														

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第2章 複素数と方程式	1複素数とその計算	12	2次方程式の解の範囲を、実数から複素数の範囲まで拡張する意義を知り、解の判別式や方程式の係数の関係を理解する。剰余の定理とその利用について理解する。因数定理による多項式の因数分解、高次方程式の解法について理解する。
5	第1節 複素数と2次方程式の解	22次方程式の解 3解と係数の関係 4剰余の定理と因数定理	16	
6	第2節 高次方程式	5高次方程式	16	
7	第3章 図形と方程式	1直線上の点 2平面上の点	16	数直線上や座標平面上の点について、2点間の距離や内分点・外分点の座標を求められるようにする。直線や円を方程式で表す方法について理解する。直線の傾きに着目し、2直線の平行・垂直に条件について考える。円と直線の位置関係を連立方程式の解や判別式を用いて判別する。軌跡の概念を理解し、その方程式を求められるようにする。不等式の表す領域について理解を深め、線形計画法の手法について知る。
8	第1節 点と直線	3直線の方程式	16	
9	第2節 円	42直線の関係	16	
10	第3節 軌跡と方程式	5円の方程式 6円と直線 72つの円 8軌跡と方程式 9不等式の表す領域	16	一般角および弧度法による表現を理解する。三角関数の相互関係や成り立つ性質を理解するとともに、単位円を用いてグラフがかけられるようにする。三角関数を含む方程式・不等式を、単位円やグラフを用いて解けるようにする。三角関数の加法定理を導き、用いることが出来るよう習熟をはかる。加法定理から2倍角の公式、半角の公式を導く。さらに三角関数の合成の方法を理解し、活用できるようにする。
11	第4章 三角関数	1角の拡張	16	
12	第1節 三角関数	2三角関数	16	
1	第2節 加法定理	3三角関数のグラフ 4三角関数の性質 5三角関数を含む方程式・不等式 6三角関数の加法定理 7加法定理の応用	16	指数を正の整数から有理数・実数まで拡張し、指数関数を扱えるようにする。指数法則から対数の性質を導き、対数関数を扱えるようにする。指数・対数関数のグラフとその性質を理解し、方程式・不等式などへ応用する。常用対数について学び、応用を図る。
2	第5章 指数関数と対数関数	1指数の拡張 2指数関数	12	
3	第1節 指数関数	3対数とその性質	12	
4	第2節 対数関数	4対数関数 5常用対数	12	平均変化率や微分係数の意味・導関数の定義を理解する。導関数の和・差・実数倍が求められるようにする。接線の方程式を導き、導関数についての考察を通して、関数の増加・減少を調べる、極大値・極小値を求めることで、3次関数・4次関数のグラフがかけられるようにする。グラフをから関数の最大・最小や方程式・不等式への応用について取り組む。微分の逆演算として不定積分を導入し、関数の和・差・定数倍の不定積分や定積分を求める。グラフで囲まれる部分の面積を求めるなど応用に取り組む。
5	第6章 微分法と積分法	1微分係数 2導関数とその計算	16	
6	第1節 微分係数と導関数	3接線の方程式 4関数の増減と極大・極小	12	
7	第2節 関数の値の変化	5関数の増減・グラフの応用	16	
8	第3節 積分法	6不定積分 7定積分	16	
9		8図形の面積と定積分	12	

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4 単位										
対象学年	第2学年(特別進学コース 理系)		履修形態	必修											
科目の目標	式と証明、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。														
学習内容の概要	(1) 式と証明 1 式と計算, 2 等式と不等式の証明 3次の乗法公式や二項定理及び因数分解の公式を用いて式の展開や因数分解をすることができるようにする。等式や不等式が成り立つことを理解し証明することができる。 (2) 複素数と方程式 1 複素数と2次方程式の解, 2 高次方程式 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則演算をできるようにする。2次方程式の解の種類の判別、解と係数の関係について理解する。因数定理を用いて、高次方程式を解く。 (3) 図形と方程式 1 点と直線, 2 円, 3 軌跡と領域 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を求める。座標平面上の直線、円を方程式で表し、円と直線の位置関係などの考察に活用する。与えられた条件を満たす点の集合と捉え、不等式の表す領域について考える。 (4) 三角関数 1 三角関数, 2 加法定理 角の概念を一般角まで拡張し弧度法を用いて扇形の面積や弧の長さを求める。三角関数のグラフを理解し方程式・不等式を解く。三角関数の加法定理、三角関数の合成について理解しそれらを活用する。 (5) 指数関数と対数関数 1 指数関数, 2 対数関数 指数を正の整数から有理数に拡張する。対数の基本的な性質を理解する。指数関数、対数関数のグラフの特徴を理解し、それらを事象の考察に活用する。 (6) 微分法と積分法 1 微分係数と導関数, 2 関数の値の変化, 3 積分法 導関数を用いてグラフの外形を描くことができるようにする。それを方程式の解や不等式の証明に活用する。定積分を用いて関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める。														
評価の観点・ 評価の方法	<table><tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">定期考査</td><td>授業態度</td></tr><tr><td>提出物・課題</td></tr><tr><td colspan="2">単元テスト・小テスト</td><td>独自の授業の要点・コメント</td></tr></table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度													
定期考査		授業態度													
		提出物・課題													
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント													
学習方法	基本的事項を理解し、それに従って考え取り組む努力、いろいろな考え方を組み合わせて取り組むなどの工夫をすることが大切である。ノートは、問題を解決した際の考え方の筋道が分かるように書くようにする。別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に確保する。まずは、授業を大切に、積極的に先生に質問をするなど、理解が不十分な内容を放置しないことが大切である。家庭では、理解が不十分だと思われる問題に取り組むなど復習を徹底すること。また、問題集による演習を通して理解の定着を図り、学習内容に対する理解を確実なものにすることが大切である。														
教科書・教材等	教科書・・・改訂版 新編数学Ⅱ (数研出版) 副教材・・・改訂版 3TRIAL 数学Ⅱ+B (数研出版編集部) 増補版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版)														

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第2章 複素数と方程式	1複素数とその計算	12	2次方程式の解の範囲を、実数から複素数の範囲まで拡張する意義を知り、解の判別式や方程式の係数の関係を理解する。剰余の定理とその利用について理解する。因数定理による多項式の因数分解、高次方程式の解法について理解する。
5	第1節 複素数と2次方程式の解	22次方程式の解 3解と係数の関係 4剰余の定理と因数定理	16	
6	第2節 高次方程式	5高次方程式	16	
7	第3章 図形と方程式	1直線上の点 2平面上の点	16	数直線上や座標平面上の点について、2点間の距離や内分点・外分点の座標を求められるようにする。直線や円を方程式で表す方法について理解する。直線の傾きに着目し、2直線の平行・垂直に条件について考える。円と直線の位置関係を連立方程式の解や判別式を用いて判別する。軌跡の概念を理解し、その方程式を求められるようにする。不等式の表す領域について理解を深め、線形計画法の手法について知る。
8	第1節 点と直線	3直線の方程式	16	
9	第2節 円	42直線の関係	16	
10	第3節 軌跡と方程式	5円の方程式 6円と直線 72つの円 8軌跡と方程式 9不等式の表す領域	16	一般角および弧度法による表現を理解する。三角関数の相互関係や成り立つ性質を理解するとともに、単位円を用いてグラフがかけられるようにする。三角関数を含む方程式・不等式を、単位円やグラフを用いて解けるようにする。三角関数の加法定理を導き、用いることが出来るよう習熟をはかる。加法定理から2倍角の公式、半角の公式を導く。さらに三角関数の合成の方法を理解し、活用できるようにする。
11	第4章 三角関数	1角の拡張	16	
12	第1節 三角関数	2三角関数	16	
1	第2節 加法定理	3三角関数のグラフ 4三角関数の性質 5三角関数を含む方程式・不等式 6三角関数の加法定理 7加法定理の応用	16	指数を正の整数から有理数・実数まで拡張し、指数関数を扱えるようにする。指数法則から対数の性質を導き、対数関数を扱えるようにする。指数・対数関数のグラフとその性質を理解し、方程式・不等式などへ応用する。常用対数について学び、応用を図る。
2	第5章 指数関数と対数関数	1指数の拡張 2指数関数	12	
3	第1節 指数関数	3対数とその性質	12	
4	第2節 対数関数	4対数関数 5常用対数	12	平均変化率や微分係数の意味・導関数の定義を理解する。導関数の和・差・実数倍が求められるようにする。接線の方程式を導き、導関数についての考察を通して、関数の増加・減少を調べる、極大値・極小値を求めることで、3次関数・4次関数のグラフがかけられるようにする。グラフをから関数の最大・最小や方程式・不等式への応用について取り組む。微分の逆演算として不定積分を導入し、関数の和・差・定数倍の不定積分や定積分を求める。グラフで囲まれる部分の面積を求めるなど応用に取り組む。
5	第6章 微分法と積分法	1微分係数 2導関数とその計算	16	
6	第1節 微分係数と導関数	3接線の方程式 4関数の増減と極大・極小	12	
7	第2節 関数の値の変化	5関数の増減・グラフの応用	16	
8	第3節 積分法	6不定積分 7定積分	16	
9		8図形の面積と定積分	12	

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	式と証明，複素数と方程式，図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
学習内容の概要	式と証明： 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 複素数と方程式： 方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して 2 次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 図形と方程式： 座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力 (3) 主体的に学習に取り組む態度 の 3 つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・確認テスト、4 回の定期考査。				
学習方法	・各授業時に配布する授業課題プリントを時間内で解き、提出すること。 ・基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、色々な考え方を工夫して みるのが大切である。 ・まず、授業を大切にし、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置 しないようにすることが肝心である。 ・家庭では、理解不十分だったと思われる問題を、問題集などを使い、独自に解けるま で再度復習をすること。				
教科書・教材等	教科書： 最新数学Ⅱ(数研出版) 副教材：3ROUND 数学Ⅱ+B 改訂版				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	(数学Ⅱ) 第1章 式と証明 第1節式と計算	1. 多項式の乗法と因数分解 2. 二項定理	1 0	3次式の展開と因数分解を学習して、さらに高次の式の展開式についてその多項式の係数を計算する方法を学ぶ。
5		3. 多項式の割り算 4. 分数式の乗法除法 5. 分数式の加法減法		パスカルの三角形などを学習した後、二項定理についてその概念を理解すると共に、現実に応用されている例などについても学習する。
6		6. 恒等式		多項式の割り算の方法、分数式の加減乗除について学習する。
	第2節等式・不等式の証明	7. 等式の証明 8. 不等式の証明 9. 相加平均相乗平均	1 6	等式・不等式の証明に考え方や方法について学習する。
7				
8	第2章 複素数と方程式 第1節複素数と方程式の解	1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式の解法	1 3	2次方程式の2つの解の範囲を、実数から複素数の範囲まで拡張する意義を知り、解の判別式や方程式の係数の関係を理解する。 剰余の定理とその利用方法について理解する。 因数定理による多項式の因数分解、高次方程式の解法について理解する。
9	第2節高次方程式			
10	第3章 図形と方程式 第1節点と直線	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直 5 円の方程式 6 円と直線	1 9	数直線上、座標平面上の点について、2点間の距離、内分点・外分点の座標を求められるようにする。 直線・円の方程式の求め方について理解する。 直線の傾きに注目し、2直線の平行・垂直条件について考える。 円と直線の位置関係を連立方程式の解、判別式を用いて理解する。
11	第2節円			
12			6	
1	第3節軌跡と方程式	7 軌跡 8 不等式の表す領域 9. 連立不等式と領域		軌跡の概念を理解し、計算により軌跡が求められるようにする。不等式の表す領域、線形計画法の手法について理解する。
2				
3				

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2 単位										
対象学年	第 2 学年（進学コース）		履修形態	必修											
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間に関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。														
学習内容の概要	1 章 場合の数と確率 1 節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 樹形図と場合の数 3 順列 4 組合せ 2 節 確率とその基本性質 1 事象と確率 2 確率の基本性質 3 節 いろいろな確率 1 独立な試行の確率 2 反復試行の確率 3 条件付き確率 4 期待値 2 章 図形の性質 1 節 三角形の性質 1 内分・外分と三角形の重心 2 三角形の外心・垂心 3 角の二等分線と三角形の内心 4 三角形における比の定理 2 節 円の性質 1 円周角の定理とその応用 2 方べきの定理 3 2つの円 4 内分点の作図と平方根の作図 3 節 空間図形 1 直線と平面 2 正四面体														
評価の観点・ 評価の方法	<table><tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">定期考査</td><td>授業態度</td></tr><tr><td>提出物・課題</td></tr><tr><td colspan="2">単元テスト・小テスト</td><td>独自の授業の要点・コメント</td></tr></table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度													
定期考査		授業態度													
		提出物・課題													
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント													
学習方法	基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな見方・考え方ができないか工夫してみることが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず、授業を大切にし、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度ををはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。														
教科書・教材等	教科書・・・最新数学A（数研出版） 副教材・・・3 TRIAL 数学 I + A（数研出版、デジタル副教材）														

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 場合の数と確率		6	有限集合の和集合・補集合の要素の個数、及び和の法則や積の法則について、図表示などを利用しながら、場合の数を求めることができる。
5	第1節 場合の数	1. 集合の要素の個数 2. 樹形図と場合の数 3. 順列 4. 組合せ	8	順列の意味を理解し、その総数 nPr や階乗の計算することができる。また、円順列や重複順列など、いろいろな順列の計算することができる。
	第2節 確率とその性質	1. 事象と確率 2. 確率の基本性質		組合せの意味を理解し、その総数 C_r を、順列との関係によって求めることができる。また、組合せの考えを、組分けや同じものを含む順列に応用することができる。
6	第3節 いろいろな確率	1. 独立な試行の確率 2. 反復試行の確率 3. 条件つき確率 4. 期待値 章末問題	8	試行と事象、根元事象などの定義を知り、事象の確率の求め方を理解するとともに、その確率を求めることができる。
7				積事象・和事象、排反事象、確率の基本性質、確率の加法定理、和事象の確率、余事象とその確率について理解し、これらを利用して確率を求めることができる。
8	第2章 図形の性質		8	独立な試行の典型的な例である反復試行の確率を理解し、簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。
9	第1節 三角形の性質	1. 内分・外分と三角形の重心 2. 三角形の外心・垂心 3. 角の二等分線と三角形の内心 4. 三角形における比の定理	8	条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解し、それらを用いて具体的な事象を数学的に考察することができる。
10			8	期待値について理解し、期待値を求めたり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。
11	第2節 円の性質	1. 円周角の定理とその応用 2. 方べきの定理 3. 2つの円 4. 内分点の作図と平方根の作図	8	三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比などについて理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。
12			6	三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について理解する。また、外接円、内接円との関係を理解する。
	第3節 空間図形	1. 直線と平面 2. 正四面体 章末問題	6	チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用していろいろな辺の長さや比を求めることができる。
1			6	円周角の定理と定理の逆について振り返るとともに、円に内接する四角形の定理と四角形が円に内接する条件の定理について理解する。さらに、接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。
2			8	円と2本の直線がつくる線分の長さの関係について考察し、方べきの定理が成り立つことを理解するとともに、それを利用して線分の長さを求めることができる。
3			6	2つの円の位置関係を理解し、そこに現れる図形の性質を利用して線分の長さを求めることができる。
				空間における2直線・2平面の位置関係やなす角、及び平面の決定条件などについて理解する。

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2 単位										
対象学年	第2 学年（キャリアコース）		履修形態	必修											
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。														
学習内容の概要	1 章 場合の数と確率 1 節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 樹形図と場合の数 3 順列 4 組合せ 2 節 確率とその基本性質 1 事象と確率 2 確率の基本性質 3 節 いろいろな確率 1 独立な試行の確率 2 反復試行の確率 3 条件付き確率 4 期待値 2 章 図形の性質 1 節 三角形の性質 1 内分・外分と三角形の重心 2 三角形の外心・垂心 3 角の二等分線と三角形の内心 4 三角形における比の定理 2 節 円の性質 1 円周角の定理とその応用 2 方べきの定理 3 2つの円 4 内分点の作図と平方根の作図 3 節 空間図形 1 直線と平面 2 正四面体														
評価の観点・ 評価の方法	<table><tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">定期考查</td><td>授業態度</td></tr><tr><td>提出物・課題</td></tr><tr><td colspan="2">単元テスト・小テスト</td><td>独自の授業の要点・コメント</td></tr></table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考查		授業態度	提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度													
定期考查		授業態度													
		提出物・課題													
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント													
学習方法	基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな見方・考え方ができないか工夫してみることが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず、授業を大切にし、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度を高め、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。														
教科書・教材等	教科書・・・最新数学A（数研出版） 副教材・・・3 TRIAL 数学 I + A（数研出版、デジタル副教材）														

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 場合の数と確率		6	有限集合の和集合・補集合の要素の個数、及び和の法則や積の法則について、図表示などを利用しながら、場合の数を求めることができる。
5	第1節 場合の数	1. 集合の要素の個数 2. 樹形図と場合の数 3. 順列 4. 組合せ	8	順列の意味を理解し、その総数 nPr や階乗の計算することができる。また、円順列や重複順列など、いろいろな順列の計算することができる。
	第2節 確率とその性質	1. 事象と確率 2. 確率の基本性質		組合せの意味を理解し、その総数 C_r を、順列との関係によって求めることができる。また、組合せの考えを、組分けや同じものを含む順列に応用することができる。
6	第3節 いろいろな確率	1. 独立な試行の確率 2. 反復試行の確率 3. 条件つき確率 4. 期待値 章末問題	8	試行と事象、根元事象などの定義を知り、事象の確率の求め方を理解するとともに、その確率を求めることができる。
7				積事象・和事象、排反事象、確率の基本性質、確率の加法定理、和事象の確率、余事象とその確率について理解し、これらを利用して確率を求めることができる。
8	第2章 図形の性質		8	独立な試行の典型的な例である反復試行の確率を理解し、簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。
9	第1節 三角形の性質	1. 内分・外分と三角形の重心 2. 三角形の外心・垂心 3. 角の二等分線と三角形の内心 4. 三角形における比の定理	8	条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解し、それらを用いて具体的な事象を数学的に考察することができる。
10			8	期待値について理解し、期待値を求めたり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。
11	第2節 円の性質	1. 円周角の定理とその応用 2. 方べきの定理 3. 2つの円 4. 内分点の作図と平方根の作図	8	三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比などについて理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。
12			6	三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について理解する。また、外接円、内接円との関係を理解する。
	第3節 空間図形	1. 直線と平面 2. 正四面体 章末問題	6	チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用していろいろな辺の長さや比を求めることができる。
1			6	円周角の定理と定理の逆について振り返るとともに、円に内接する四角形の定理と四角形が円に内接する条件の定理について理解する。さらに、接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。
2			8	円と2本の直線がつくる線分の長さの関係について考察し、方べきの定理が成り立つことを理解するとともに、それを利用して線分の長さを求めることができる。
3			6	2つの円の位置関係を理解し、そこに現れる図形の性質を利用して線分の長さを求めることができる。
				空間における2直線・2平面の位置関係やなす角、及び平面の決定条件などについて理解する。

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	1 単位										
対象学年	第2学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修											
科目の目標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。														
学習内容の概要	（1）数列 数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。簡単な数列 $\{a_n\}$ について，n と a_n との対応関係に着目して，数列の一般項の意味を理解する。合わせて，初項，第 n 項，末項，項数などの基本用語を学ぶ。さらに，等差数列と等比数列を理解し，その一般項を求め，更に第 n 項までの和を求められるようにする。和の記号 Σ を導入して，数列の和をこの記号を使って表すことを学び，この記号の性質を調べる。続いて自然数の累乗の和の公式を導出して，記号 Σ によって，いろいろな数列の和が見通しよく計算できることを理解する。 さらに，ある数列については，その数列の各項の階差に着目すれば，その一般項が容易に求められることを理解する。ここでは，階差数列が等差数列や等比数列になるような簡単な数列を考察する。 数列の帰納的な定義について理解し，漸化式から一般項が求められるようにするとともに，複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。 （2）統計的な推測 確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることを通じて，分布の特徴を把握できるようにする。また，連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 母集団と標本，標本平均について理解し，特に標本平均については，それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また，母平均や母比率の推定，正規分布を用いた仮説検定ができるようにし，それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。														
評価の観点・ 評価の方法	<table><tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">定期考査</td><td>授業態度</td></tr><tr><td>提出物・課題</td></tr><tr><td colspan="2">単元テスト・小テスト</td><td>独自の授業の要点・コメント</td></tr></table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度													
定期考査		授業態度													
		提出物・課題													
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント													
学習方法	基本的事項を理解し，それに従って考えを進める努力と，いろいろな考え方を工夫して試みるのが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き，別解や重要事項も記入できるよう，余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず，授業を大切に，積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では，理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また，問題集などを通して理解度をはかり，その日学んだ内容をより確実なものにしておく。														
教科書・教材等	教科書・・・新編数学B（数研出版） 副教材・・・3 T R I A L 数学B（数研出版編集部） 改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B（数研出版）														

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 数列	1 数列と一般項	3	数列の第 n 項を n の式で表すことによって、数列が定まることを理解する。等差数列、等比数列の一般項や和の公式を導き、公式の適用や身近な数列の問題への活用ができるようにする。数列の和を示したり、和を求めるのに有用な Σ を導入し、その性質を知り、正しい理解の上で Σ を活用できるようにする。 Σ を用いて、等差数列、等比数列以外の数列について、和を求めることができるようにする。階差数列から、一般項を求める方法について理解する。
5	第1節 等差数列と等比数列	2 等差数列	4	
		3 等差数列の和		
		4 等比数列		
		5 等比数列の和		
6	第2節 いろいろな数列	6 和の記号 Σ	4	
7		7 階差数列	4	
8		8 いろいろな数列の和	4	
9	第3節 数学的帰納法	9 漸化式	4	
		10 数学的帰納法		
10	第2章 統計的な推測			漸化式の考えを導入して、数列を帰納的に定義するということの意味、必要性を理解する。隣接する二項間の関係が1次の形で表された数列の一般項を、求められるようにする。数学的帰納法の意味、およびそれによる証明の仕方を多くの例にあたりながら理解する。
	第1節 確率分布	1 確率変数と確率分布	4	
		2 確率変数の期待値の分散		
11		3 確率変数の和と積	4	
	第2節 統計的な推測	4 二項分布		
12		5 正規分布	3	
1		6 母集団と標本	3	
2		7 標本平均の分布	4	
		8 推定		
3		9 仮説検定	3	
		問題演習		

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2 単位										
対象学年	第 2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修											
科目の目標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。														
学習内容の概要	（1）数列 数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。簡単な数列 $\{a_n\}$ について，n と a_n との対応関係に着目して，数列の一般項の意味を理解する。合わせて，初項，第 n 項，末項，項数などの基本用語を学ぶ。さらに，等差数列と等比数列を理解し，その一般項を求め，更に第 n 項までの和を求められるようにする。和の記号 Σ を導入して，数列の和をこの記号を使って表すことを学び，この記号の性質を調べる。続いて自然数の累乗の和の公式を導出して，記号 Σ によって，いろいろな数列の和が見通しよく計算できることを理解する。 さらに，ある数列については，その数列の各項の階差に着目すれば，その一般項が容易に求められることを理解する。ここでは，階差数列が等差数列や等比数列になるような簡単な数列を考察する。 数列の帰納的な定義について理解し，漸化式から一般項が求められるようにするとともに，複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。 （2）統計的な推測 確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることを通じて，分布の特徴を把握できるようにする。また，連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 母集団と標本，標本平均について理解し，特に標本平均については，それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また，母平均や母比率の推定，正規分布を用いた仮説検定ができるようにし，それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。														
評価の観点・ 評価の方法	<table><tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">定期考査</td><td>授業態度</td></tr><tr><td>提出物・課題</td></tr><tr><td colspan="2">単元テスト・小テスト</td><td>独自の授業の要点・コメント</td></tr></table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考査		授業態度	提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度													
定期考査		授業態度													
		提出物・課題													
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント													
学習方法	基本的事項を理解し，それに従って考えを進める努力と，いろいろな考え方を工夫してみることが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き，別解や重要事項も記入できるよう，余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず，授業を大切に，積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では，理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また，問題集などを通して理解度をはかり，その日学んだ内容をより確実なものにしておく。														
教科書・教材等	教科書・・・新編数学B（数研出版） 副教材・・・3 T R I A L 数学B（数研出版編集部） 改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B（数研出版）														

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 数列 第1節 等差数列 と等比数列	1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	6	数列の第 n 項を n の式で表すことによって、数列が定まることを理解する。等差数列、等比数列の一般項や和の公式を導き、公式の適用や身近な数列の問題への活用ができるようにする。数列の和を示したり、和を求めるのに有用な Σ を導入し、その性質を知り、正しい理解の上で Σ を活用できるようにする。 Σ
5	第2節 いろいろな数列	6 和の記号 Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和	8	を用いて、等差数列、等比数列以外の数列について、和を求めることができるようにする。階差数列から、一般項を求める方法について理解する。
6	第3節 数学的帰納法 第2章 統計的な推測	9 漸化式 10 数学的帰納法	8	漸化式の考えを導入して、数列を帰納的に定義するということの意味、必要性を理解する。隣接する二項間の関係が1次の形で表された数列の一般項を、求められるようにする。数学的帰納法の意味、およびそれによる証明の仕方を多くの例にあたりながら理解する。
7 8	第1節 確率分布	1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値の分散 3 確率変数の和と積	8	確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえる。確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。
9	第2節 統計的な推測	4 二項分布 5 正規分布 6 母集団と標本	8	確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。
10		7 標本平均の分布 8 推定	8	母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。推定や信頼区間の考え方がわかる。
11		9 仮説検定	8	仮説検定の考え方がわかる。片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。
12		問題演習	6	
1			6	
2			8	
3			6	

教科名	数学	科目名	数学 C	単位数	1 単位										
対象学年	第 2 学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修											
科目の目標	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。														
学習内容の概要	（1）ベクトル 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また，図形をベクトルを用いて表せることを理解し，基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また，図形をベクトルを用いて表せることを理解し，基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。 （2）複素数平面 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し，複素数の計算を図形を用いて考察するとともに，図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。 （3）二次曲線 放物線，楕円，双曲線の定義や性質を理解し，それらを図示したり，問題の解決に活用したりできるようにする。また，離心率を用いて 2 次曲線を統一的に捉えられるようにする。														
評価の観点・ 評価の方法	<table><tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">定期考查</td><td>授業態度</td></tr><tr><td>提出物・課題</td></tr><tr><td colspan="2">単元テスト・小テスト</td><td>独自の授業の要点・コメント</td></tr></table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考查		授業態度	提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度													
定期考查		授業態度													
		提出物・課題													
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント													
学習方法	基本的事項を理解し，それに従って考えを進める努力と，いろいろな考え方を工夫して試みるのが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き，別解や重要事項も記入できるよう，余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず，授業を大切に，積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では，理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また，問題集などを通して理解度を高め，その日学んだ内容をより確実なものにしておく。														
教科書・教材等	教科書・・・新編数学 C （数研出版） 副教材・・・3 T R I A L 数学 C （数研出版編集部） 改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C（数研出版）														

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル	3	有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解する。 ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができるベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。内積の性質を用いて、等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。位置ベクトルの一意性を活用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。
5	第1節 ベクトルとその演算	2 ベクトルの演算	4	
6	第2節 ベクトルと平面図形	3 ベクトルの成分	4	
7	第2章 空間ベクトル	4 ベクトルの内積	4	
8		5 位置ベクトル	4	
9		6 ベクトルの図形への応用	4	
10		7 図形のベクトルによる表示	4	
11		1 空間の点	4	
12		2 空間のベクトル	4	
		3 ベクトルの成分	3	
		4 ベクトルの内積	3	
		5 ベクトルの図形への応用	3	
		6 座標空間における図形	3	
	第3章 複素数平面	1 複素数平面	4	複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解し、説明できる。素数の和、差、実数倍の、複素数平面における図形的意味を理解し、説明できる。共役複素数の性質を理解し、また、それらを証明問題に利用することができる。複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。複素数の積、商の絶対値、偏角の性質を理解し、それらを求めることができる。複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。ド・モアブルの定理を理解し、複素数のn乗を求めることができる。線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し、利用することができる。 軌跡の考え方をを用いて、放物線の方程式を導くことができる。軌跡の考え方をを用いて、楕円の方程式を導くことができる。軌跡の考え方をを用いて、双曲線の方程式を導くことができる。2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察できる。条件から点の座標を1つの文字で表し、それを曲線の媒介変数表示と捉えることで、その点が描く曲線を求めることができる直交座標と極座標の関係性を理解したうえで、点の座標や方程式を相互に変換することができる。
		2 複素数の極形式	4	
		3 ド・モアブルの定理	3	
		4 複素数と図形	3	
1	第4章 式と曲線	1 放物線	3	
2	第1節 2次曲線	2 楕円	4	
3		3 双曲線	3	
		4 2次曲線の平行移動	3	
		5 2次曲線と直線	3	
	第2節 媒介変数表示と極座標	6 曲線の媒介変数表示	3	
		7 極座標と曲方程式	3	
		8 コンピュータの利用	3	

教科名	数学	科目名	数学 C	単位数	1 単位										
対象学年	第 2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修											
科目の目標	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。														
学習内容の概要	（1）ベクトル 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また，図形をベクトルを用いて表せることを理解し，基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また，図形をベクトルを用いて表せることを理解し，基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。 （2）複素数平面 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し，複素数の計算を図形を用いて考察するとともに，図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。 （3）二次曲線 放物線，楕円，双曲線の定義や性質を理解し，それらを図示したり，問題の解決に活用したりできるようにする。また，離心率を用いて 2 次曲線を統一的に捉えられるようにする。														
評価の観点・ 評価の方法	<table><tr><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">定期考查</td><td>授業態度</td></tr><tr><td>提出物・課題</td></tr><tr><td colspan="2">単元テスト・小テスト</td><td>独自の授業の要点・コメント</td></tr></table>					知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	定期考查		授業態度	提出物・課題	単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度													
定期考查		授業態度													
		提出物・課題													
単元テスト・小テスト		独自の授業の要点・コメント													
学習方法	基本的事項を理解し，それに従って考えを進める努力と，いろいろな考え方を工夫して試みるのが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き，別解や重要事項も記入できるよう，余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず，授業を大切に，積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では，理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また，問題集などを通して理解度を高め，その日学んだ内容をより確実なものにしておく。														
教科書・教材等	教科書・・・新編数学B（数研出版） 副教材・・・3 T R I A L 数学B（数研出版編集部） 改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B（数研出版）														

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル	3	有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解する。 ベクトルの和, 差, 実数倍の定義をもとに, それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 具体的なベクトルを成分表示できる。また, そのベクトルの大きさを求めることができるベクトルの垂直条件を活用して, 与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。内積の性質を用いて, 等式を証明したり, ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 位置ベクトルを活用して, 3点が一直線上にあることを証明できる。位置ベクトルの一意性を活用して, 線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。
5	第1節 ベクトルとその演算	2 ベクトルの演算	4	
6	第2節 ベクトルと平面図形	3 ベクトルの成分	4	
7	第2章 空間ベクトル	4 ベクトルの内積	4	
8		5 位置ベクトル	4	
9		6 ベクトルの図形への応用	4	
10		7 図形のベクトルによる表示	4	
11		1 空間の点	4	
12		2 空間のベクトル	4	
		3 ベクトルの成分	3	
		4 ベクトルの内積	3	
		5 ベクトルの図形への応用	3	
		6 座標空間における図形	3	
	第3章 複素数平面	1 複素数平面	4	複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解し, 説明できる。素数の和, 差, 実数倍の, 複素数平面における図形的意味を理解し, 説明できる。共役複素数の性質を理解し, また, それらを証明問題に利用することができる。複素数の極形式について理解し, 複素数を極形式で表すことができる。複素数の積, 商の絶対値, 偏角の性質を理解し, それらを求めることができる。複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。ド・モアブルの定理を理解し, 複素数のn乗を求めることができる。線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し, 利用することができる。 軌跡の考え方をを用いて, 放物線の方程式を導くことができる。軌跡の考え方をを用いて, 楕円の方程式を導くことができる。軌跡の考え方をを用いて, 双曲線の方程式を導くことができる。2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え, 共有点の個数について考察できる。条件から点の座標を1つの文字で表し, それを曲線の媒介変数表示と捉えることで, その点が描く曲線を求めることができる直交座標と極座標の関係性を理解したうえで, 点の座標や方程式を相互に変換することができる。
		2 複素数の極形式	4	
		3 ド・モアブルの定理	3	
		4 複素数と図形	3	
1	第4章 式と曲線	1 放物線	3	
2	第1節 2次曲線	2 楕円	4	
3		3 双曲線	3	
		4 2次曲線の平行移動	3	
		5 2次曲線と直線	3	
	第2節 媒介変数表示と極座標	6 曲線の媒介変数表示	3	
		7 極座標と曲方程式	3	
		8 コンピュータの利用	3	

教科名	数学	科目名	生活数学（学校設定）	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（進学・キャリア・就職）		履修形態	必修	
科目の目標	将来、地域社会を担っていく上で必要となる一般教養、論理的思考力、探求心、問題分析能力、問題解決能力などを身に付けるとともに、自分自身の生き方を考え、主体的に学習する態度を育成する。				
学習内容の概要	第 1 章 SPI 検査の概要と対策 SPI とは何か、能力検査（言語分野）、能力検査（非言語分野）、性格検査 仕事調べ、社会人に必要な力とは 第 2 章 言語分野 反意語、同意語、二語の関係、語句の意味、語句の用法、文章整序、文章理解 第 3 章 非言語分野 四則計算、小数・分数の計算、方程式、割合、比、損益、料金など 第 4 章 確認テスト その他 食生活における計算（塩分計算、廃棄率、買い物など） 企業が望む人材とは、求人票の見方、自己PRを考える				
評価の観点・ 評価の方法	①関心・意欲・態度 ・ ・ 自立した社会人として生きていくために必要な能力を身に付けるために主体的に学び、理解しようとしているか ②知識・理解 ・ ・ 一般教養や論理的思考力が身に付いたか ③技能・表現 ・ ・ 習得した知識をもとに自分の考え方を適切に表現できるか。 定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	①興味・関心を持って授業に取り組む。 ②日々のできごとに関心を持ち、自分で考える習慣をつける。				
教科書・教材等	○自主作成プリント ○『完全攻略新版高校生の SPI 問題集』				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 SPI 検査の概要と対策	SPI とは何か 能力検査（言語分野） 能力検査（非言語分野） 性格検査	6	○就職試験で実施される適性検査について種類や目的を知る。
5	仕事調べ 企業が必要としている人材とは	なりたい職業を調べる 社会人として必要な力とは何かを考える	8	○なりたい職業を調べることで、社会人として必要な力について知り、実践に結びつける。
6	第2章 言語分野	反意語 同意語 二語の関係	8	○基本的な語彙力や文書処理に関する理解力を高める。
7		語句の意味 語句の用法 文章整序 文章理解	8	
8	第3章 非言語分野	四則計算 小数・分数の計算 方程式 割合 比 損益 料金 速さ・時間・距離 など	8	
9				○仕事をする上で必要となる基本的な計算能力や、データをもとに将来を予測する能力、論理的な思考能力を高める。
10				
11	その他 食生活に必要な計算	調味料の計量 塩分濃度の計算 廃棄率の計算	8	
12	自分の強みを知る	自己PRを考える	6	○社会人に必要な力について考え、実践してきたことを自分の強みとしてPRする。
1	多様な職業を知る	求人票の見方を知り、自分の強みを活かした職業選択について考える	6	○求人票の見方を知り、給与だけでなく、離職率や試験方法も調べ、自分の強みを活かせる職場を探す。
2			8	
3			6	

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、化学的に探究する力を養うとともに、物質とその変化に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習内容の概要	（１）化学と人間生活 日常生活や社会を支える身近な物質を調べ、物質や元素について理解する。 （２）物質と化学結合 物質の扱いや性質を分類して構成粒子である原子の構造や概観を理解する。物質の構成粒子である原子の電子配置を学び、粒子同士の化学結合を理解することで、単体の元素から結合してできる結晶までの関係を理解する。 （３）物質の変化 物質量を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。酸・塩基について、液性の理由や強弱の原因・中和・滴定曲線を、酸化・還元について、利用例や電気分解の原理を学習し、身近な化学反応と紐づけて理解する。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階（A・B・C）で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。 評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用いた上級学校の受験にむけた問題演習等。 ICT 機器の活用および、視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」（数研出版） 問題集 「新課程 リード Light 化学基礎」（数研出版）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の構成	混合物と純物質 物質とその成分 物質の三態と熱運動	6	代表的な物質を、混合物と純物質に分類できるようにする。物質が元素という単位から構成されること、またその種類を理解する。
5	物質の構成粒子	原子とその構造 イオン 周期表	8	原子の構造を理解する。最外殻が増減することで、電荷を帯びてイオンになることを理解する。価電子の数と化学的性質には関係性があることを理解する。
6	粒子の結合	イオン結合 分子と共有結合 分子の極性	8	原子は電子を介して結合すること、またその結合の種類とそれによってできる物質の性質について理解する。
7		共有結合の物質 金属結合と金属	8	
8	物質質量と化学反応	原子量・分子量・式量	8	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。物質質量とその応用を理解する。化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
9		物質質量 溶液の濃度		
10		化学反応式と物質質量	8	
11	酸と塩基の反応	酸・塩基 水の電離と水溶液のpH 中和反応 塩	8	酸・塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。中和の原理を理解し、塩の分類を学習する。また、中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
12		中和滴定	6	
1	酸化還元反応	酸化と還元 酸化剤と還元剤	6	酸化・還元の定義を理解する。電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。
2		金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用	8	金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。電気分解について学習し、電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
3			6	

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 化学が物質を対象とする科学であり、人間生活に果たしている役割が理解できる。 2. 物質を構成する粒子の構造と結合のしくみや種類、その違いによる物質の種類や性質の違いを理解できる。 3. 化学反応の量的関係、酸・塩基の性質と中和反応、酸化還元反応と電子の授受について理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。				
学習内容の概要	物質の構成と化学結合 物質の構成・・・物質を構成から分類し、粒子の熱運動と物質の状態を理解する。 物質の構成粒子・・・原子の構造を理解し電子配置やイオンの生成、周期律を学ぶ。 粒子の結合・・・構成粒子と化学結合の関係を理解し、結合からなる結晶を学ぶ。 物質の変化 物質量と化学反応式・・・物質量を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。 酸・塩基・・・酸・塩基、酸性・塩基性について液性の理由や強弱の原因、電離式、中和反応の量的関係、中和滴定、滴定曲線と指示薬、塩について学ぶ。 酸化・還元・・・酸化還元を電子の授受による酸化数の変化であると統一的に考え、酸化剤・還元剤のはたらきと、そのときにおこる化学変化を化学反応式表せるようにするとともに、その利用例として金属の精錬や電池、電気分解の原理を学習する。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階(A・B・C)で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。 評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。 ICT 機器の活用および、視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」(数研出版) 問題集 「新課程 リード Light ノート化学基礎」(数研出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の構成と化学結合 物質の構成	1. 混合物と純物質 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動	6	物質の分類を把握し、成分を理解する。 物質の三態変化は熱運動によることを学び、熱の出入りや体積の変化を理解する。
5	物質の構成粒子	1. 原子とその構造 2. イオン	8	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。 イオンの成り立ち、性質を学ぶ。
6		3. 周期表	8	周期表で特徴的な元素の分類を理解し価電子と周期律の関係を学ぶ。
7	粒子の結合	1. イオン結合とイオンからなる物質	8	原子の種類で化学結合が決定することを理解し、結合の種類と特徴・結合から作られる物質として結晶を学ぶ。
8		2. 分子と共有結合 3. 分子の極性 4. 共有結合の物質	8	分子形と極性の有無を理解する。
9		5. 金属結合と金属	8	
10	物質の変化 物質質量と化学反応式	1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量 3. 化学反応式と物質質量	8	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 物質質量とその応用を理解する。
11	酸と塩基の反応	1. 酸と塩基 2. 水の電離と水溶液の pH	8	化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
12		3. 中和反応 4. 塩 中和滴定実験	6	酸・塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の分類を学習する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
1	酸化還元反応	1. 酸化と還元	6	
2		2. 酸化・還元と酸化数 3. 酸化剤・還元剤 4. 金属のイオン化傾向	8	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。
3		5. 酸化還元反応と日常生活 6. 電気分解と金属の精錬	6	金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。 電気分解における電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	1．日常生活の様々な場面に結びついている化学の「法則と定理」を理解することで、私たちの生活に科学が深く関わっていることに気づくことができる。 2．物質を構成する粒子の構造や結合の仕組みの違いによる物質の性質の違いを理解できる。 3．化学反応の量的関係、酸・塩基の性質と中和反応、酸化還元反応と電子の授受について理解できるとともに、身近な化学反応と紐づけて考察できる。				
学習内容の概要	（１）物質の構成 物質の扱いや性質を分類して構成粒子である原子の構造や概観を理解する。 （２）物質と化学結合 物質の構成粒子である原子の電子配置を学び、粒子同士の化学結合を理解することで、単体の元素から結合してできる結晶までの関係を理解する。 （３）物質の変化 物質量を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。 酸・塩基について、液性の理由や強弱の原因・中和・滴定曲線を、酸化・還元について、利用例や電気分解の原理を学習し、身近な化学反応と紐づけて理解する。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階(A・B・C)で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。 評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。 視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」（東京書籍） 問題集 「新課程 ニューアチーブ化学基礎」（東京書籍）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の成分と構成 元素	物質の成分 物質の構成元素	6	物質の分類を把握し、成分を理解する。 元素の定義とその種類を身近な物質から理解する。 個体液体期待の性質と構成粒子の動きを理解する。
5		物質の三態	8	
6	原子の構造と元素 の周期表 化学結合	原子の構造 電子配置と周期表	8	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。 原子内での電子の収まり方周期表での位置関係を理解する。 イオンの成り立ち、性質を学ぶ。
7		イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 化学結合と物質の分類	8	
8	物質と化学反応 式	原子量・分子量・式量		元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。
9		物質質量 溶液の濃度 化学反応の表し方	8	物質質量の考え方を理解する。 溶液中の溶質の物質質量の求め方を学習する。
10		化学反応式の表す量的関係	8	反応物と生成物の関係を化学反応式で表せるようになる。 化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
11		酸と塩基の反応	8	酸・塩基の定義を理解する。
12	酸化還元反応	水素イオン濃度と pH 中和反応と塩の生成 中和滴定	6	酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の分類を学習する。 中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
1		酸化と還元 酸化剤・還元剤	6	酸化・還元反応の定義を理解する。
2		金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用	8	酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。 イオン化傾向について理解する。
3			6	電池のしくみを理解する。

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解し、見通しをもって観察、実験を行い、化学的に探究する力を養うとともに、物質とその変化に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習内容の概要	（１）化学と人間生活 日常生活や社会を支える身近な物質を調べ、物質や元素について理解する。 （２）物質と化学結合 物質の扱いや性質を分類して構成粒子である原子の構造や概観を理解する。物質の構成粒子である原子の電子配置を学び、粒子同士の化学結合を理解することで、単体の元素から結合してできる結晶までの関係を理解する。 （３）物質の変化 物質量を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。 酸・塩基について、液性の理由や強弱の原因・中和・滴定曲線を、酸化・還元について、利用例や電気分解の原理を学習し、身近な化学反応と紐づけて理解する。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階(A・B・C)で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。 評価の方法は定期考査、小テスト、プリントやノート等の提出物、授業態度により総合的に評価する。				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。 視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」(東京書籍) 問題集 「ニューアチーブ化学基礎 書籍+デジタルワークブック」(東京書籍)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の構成と化学結合 物質の構成	1. 混合物と純物質 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動	2 2 2	物質の分類を把握し、成分を理解する。 物質の三態変化は熱運動によることを学び、熱の出入りや体積の変化を理解する。
5	物質の構成粒子	1. 原子とその構造	3	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。
		2. イオン	3	イオンの成り立ち、性質を学ぶ。
6		3. 周期表	3	周期表で特徴的な元素の分類を理解し価電子と周期律の関係を学ぶ。
7	粒子の結合	1. イオン結合とイオンからなる物質 2. 分子と共有結合 3. 分子の極性 4. 共有結合の物質 5. 金属結合と金属	3 3 3 3 3	原子の種類で化学結合が決定することを理解し、結合の種類と特徴・結合から作られる物質として結晶を学ぶ。 分子形と極性の有無を理解する。
8	物質の変化 物質の質量と化学反応式	1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量 3. 化学反応式と物質質量	3 3 3	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 物質質量とその応用を理解する。
10	酸と塩基の反応	1. 酸と塩基 2. 水の電離と水溶液のpH 3. 中和反応 4. 塩・中和滴定実験	3 4 3 3	化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。 酸・塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。
11	酸化還元反応	1. 酸化と還元	3	中和を理解し、塩の分類を学習する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
12		2. 酸化・還元と酸化数	3	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。
1		3. 酸化剤・還元剤 4. 金属のイオン化傾向	4 4	酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。
2		5. 酸化還元反応と日常生活 6. 電気分解と金属の精錬	3 3	金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。 電気分解における電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
3				

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持って観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	（１）地球の構成 一番身近な惑星である地球の特徴・形・大きさについて学び、変動する地球について、地球がプレートの運動や火山活動によって変動してきたことを理解し、自然災害と人間生活の関わりについても考察する。地球をとりまく大気と海洋の変化・流動性について熱収支との関係の視点を持ちながら理解し、身近な自然現象から地球の環境の変化と人間生活の相互的なかかわりについて考察する。 （２）地球の変動 宇宙の誕生と銀河の分布について理解するとともに、太陽の表面の現象と太陽エネルギー源および恒星としての太陽の進化を探究する。 生命を生み出す条件を備えた地球の変遷について理解し、生物の進化・繁栄の多様性を理解する。 日本列島並びに地球全体の自然環境について理解し、その恩恵や災害、地球環境問題など自然環境と人間生活の関わりについて探究する。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階(A・B・C)で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。 評価は定期考査、小テスト、出席状況、課題・レポート等の提出物、授業態度等によって総合的に行う。				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「高等学校 地学基礎」(第一学習社) 問題集 「ニューサポート地学基礎」(東京書籍)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	地球の構成と運動	地球の形と大きさ 地球内部の構成	6	地球の特徴や内部の構成を学び、地球表面の構造とその活動について理解する。
5		プレート運動 火山と地震	8	火山のしくみと地球の構造との関わり、火成岩の構造のちがいについて理解し、その恩恵と防災について考察する。
6		大気と海洋	8	大気と地球全体の熱収支を理解し、地球規模で大気と海水に循環について考える。また、日本列島を取り巻く環境について理解する。
7			8	
8			8	
9	太陽系と宇宙	太陽系の中の地球 太陽とその進化	8	太陽の表面で見られる現象とともに、エネルギー源・進化について考え、理解する。太陽系・惑星の形成過程を理解する。
10		宇宙のすがた	8	ビッグバンからどのようにして宇宙ができたのか。現在の宇宙の構造について理解する。
11	地球の変遷	地層と化石 古生物の変遷と地球環境	6	変動しつつある地球の変遷を知ることや学び、生物の進化・繁栄と地球環境の変化がともにあることを理解する。
12			8	
1	地球の環境	日本の自然環境 地球環境の科学	6	自然環境の変化としくみを科学的に考察し、人間生活とどうかかわっているか理解し、現在ある様々な問題についてどのように関わっていくか探求する。
2			8	
3				

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持って観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	（１）地球のすがた 一番身近な惑星である地球の特徴・形・大きさについて学び、変動する地球について、地球がプレートの運動や火山活動によって変動してきたことを理解し、自然災害と人間生活の関わりについても考察する。地球をとりまく大気と海洋の変化・流動性について熱収支との関係の視点を持ちながら理解し、身近な自然現象から地球の環境の変化と人間生活の相互的なかわりについて考察する。 （２）変動する地球 宇宙の誕生と銀河の分布について理解するとともに、太陽の表面の現象と太陽エネルギー源および恒星としての太陽の進化を探究する。 生命を生み出す条件を備えた地球の変遷について理解し、生物の進化・繁栄の多様性を理解する。 日本列島並びに地球全体の自然環境について理解し、その恩恵や災害、地球環境問題など自然環境と人間生活の関わりについて探究する。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階(A・B・C)で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。 評価は定期考査、小テスト、出席状況、課題・レポート等の提出物、授業態度等によって総合的に行う。				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「高等学校 地学基礎」(第一学習社) 問題集 「ニューサポート地学基礎」(東京書籍)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	地球の構成と運動	地球の形と大きさ 地球内部の構成	6	地球の特徴や内部の構成を学び、地球表面の構造とその活動について理解する。
5		プレート運動 火山と地震	8	火山のしくみと地球の構造との関わり、火成岩の構造のちがいについて理解し、その恩恵と防災について考察する。
6		大気と海洋	8	大気の構造と地球全体の熱収支を理解し、地球規模で大気と海水に循環について考える。また、日本列島を取り巻く環境について理解する。
7			8	
8			8	
9	太陽系と宇宙	太陽系の中の地球 太陽とその進化	8	太陽の表面で見られる現象とともに、エネルギー源・進化について考え、理解する。太陽系・惑星の形成過程を理解する。
10		宇宙のすがた	8	ビッグバンからどのようにして宇宙ができたのか。現在の宇宙の構造について理解する。
11	地球の変遷	地層と化石 古生物の変遷と地球環境	6	変動しつつある地球の変遷を知ることを選び、生物の進化・繁栄と地球環境の変化がともにあることを理解する。
12			8	
1	地球の環境	日本の自然環境 地球環境の科学	6	自然環境の変化としくみを科学的に考察し、人間生活とどうかかわっているか理解し、現在ある様々な問題についてどのように関わっていくか探求する。
2			8	
3				

教科名	理科	科目名	生物	単位数	3 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	選択	
科目の目標	生物や生物現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	（１）生物と進化 生命現象を支える物質の働きについて探求し、タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、生命現象を分子レベルでとらえる。 （２）生命現象と物質 生物の生殖や発生について探求し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。 （３）遺伝情報の発現と発生 環境の変化に生物が反応していることについて探求し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。 （４）生物の環境応答、及び（５）生態と環境は 3 年次に学習する。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階(A・B・C)で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。 評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「生物」(東京書籍) 問題集 「新課程 ニューアチーブ 生物」(東京書籍)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	生物の進化	生命の歴史を追いながら、その多様性と共通性について学ぶ	9	生命の起源とその変遷について理解する。また、進化の概念を学んだうえで、生物のもつ内的・外的特徴を捉える。
5			12	
6	細胞と物質	細胞小器官や細胞の働きを分子レベルで見えていく。	12	細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。さまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解する。
7	代謝とエネルギー	呼吸によりエネルギーが取り出される仕組みと、光合成によって有機物がつくられる仕組み、また窒素同化について理解する。	12	呼吸の仕組みである発酵、解糖系やクエン酸回路および、電子伝達系について理解し、二酸化炭素から糖をつくる炭酸同化の仕組みを理解する。また、有機窒素化合物を合成する働きである窒素同化を理解する。
8			12	
9	遺伝情報の発現	DNA 構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳の仕組み、遺伝子発現の調節を学ぶ。	12	DNA の複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組みおよび遺伝子情報の変化を理解し、遺伝子の発現が調節されていることおよびその仕組みの概要を理解させる。
10			12	
11	発生と遺伝子発現	発現遺伝子の調節による生物の発生のしくみを理解する。	12	遺伝子発現の調節によって進む発生のメカニズムを理解する。
12	遺伝子を扱う技術	バイオテクノロジーの原理とその応用を見ていく。	9	遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。
1	動物の反応と行動	外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを学び、刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。	9	受容器、効果器の働きを理解し、神経細胞が刺激を伝達する仕組みを理解する。神経系の仕組みを理解し、環境に応じた反応をする動物の行動を理解する。
2			12	
3	植物の環境応答	植物が環境からの刺激に応答するしくみを理解する。	9	植物の発芽と成長、開花と老化の環境応答理解し、環境応答に関係している。植物ホルモンの働きについて理解する。

教科名	理科	科目名	化学	単位数	3 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修	
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	（１）物質の状態 気体，液体，固体の性質を観察，実験などを通して探究し，物質の状態変化，状態間の平衡，溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。 （２）物質の変化 化学反応に伴うエネルギーの出入り，反応速度及び化学平衡を観察，実験などを通して探究し，化学反応に関する概念や法則を理解するとともに，それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」の 3 項目とする。この 3 点について 3 段階（A・B・C）で評価し、3 観点の評価から総合的に評定する。 評価の方法は定期考査、出席状況、課題・ノート等の提出物、レポート、授業態度等により総合的に評価する。				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学」（数研出版） 問題集 「新課程 リードLight ノート化学」（数研出版）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	粒子の結合と結晶の構造	化学結合と結晶の性質、分子間の結合、分子結晶の性質と構造・非晶質について学ぶ。	9	物質が粒子から構成されていることや、個々の粒子の結合を復習する。非晶質については新しい用語なので、通常の結晶との違いについて留意させる。
5	物質の三態と状態変化	物質の三態変化に伴う熱の出入りを学習する。飽和蒸気圧と沸騰の関係を学ぶ。	12	物質には固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、相互の変化には熱の出入りによる粒子の熱運動がもとになっていることを化学基礎でも学習しているが、次の気体の性質につながるように扱う。
6	気体	ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式を学ぶ。理想気体と実在の気体との違いを学ぶ。	12	気体の体積は液体や固体と異なり、圧力や温度で大きく変化することを理解する。しかもそれは気体の種類にあまり依存しないことから、気体共通の性質として、これを利用して分子量を求めるなど、実験とともにその関係を理解し、計算方法を体得する。
7	溶液	溶解度、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の定量的な取扱いを学ぶ。コロイド溶液の性質を学ぶ。	12	薄い溶液では共通の性質が表れることを学ぶ。また、生物体などのほか、コロイド溶液についても、身近な現象と結びつけながら学ぶ。
8	化学反応とエネルギー	熱化学方程式のつくり方を学ぶ。ヘスの法則を理解する。エンタルピーを用いた表現を学ぶ。	12	化学変化や状態変化には熱の出入りが伴う。熱の出入りが意味することをエネルギーの観点から考え、未知の熱量を計算により、求めることを学ぶ。
9			12	
10			12	
	電池と電気分解	電池の原理、構成を学ぶ。電気分解の利用として、電解精錬や熔融塩電解を学ぶ。	12	電池の化学反応は、化学基礎の酸化還元反応の中で簡単に触れているが、もう一度復習し、続いて電気分解のしくみ、量的関係、工業的な利用法を学ぶ。
11	化学反応の速さ としくみ	反応の速さと濃度、圧力・温度との関係を学ぶ。触媒の働きとその利用を学習する。	9	その反応の速さの違いや、一部の反応については化学平衡の状態について、反応のしくみとあわせて学ぶ。物質を工業的に製造する場合、化学反応の速さや化学平衡の考え方がどのように利用されているかを学ぶ。可逆反応においては平衡状態が存在すること、その状態は平衡定数で表されることを学び、それらをもとに質量作用の法則を理解する。また、化学平衡は濃度・圧力・温度で移動するが、その変化の仕方と、それを有効に利用する方法を学ぶ。
1			9	
2			12	
3	化学平衡	可逆反応と不可逆反応、化学平衡を理解する。ルシャトリエの原理の応用例としてアンモニアの製法を学ぶ。平衡定数を学ぶ。	9	

教科名	理科	科目名	物理	単位数	3 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	選択	
科目の目標	物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	（1）様々な運動 運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方にに基づき、物体の運動を観察、実験などを通して探究し、力と運動に関する概念や原理・法則を系統的に理解して、それらを活用できるようにする。 （2）波 水面波、音、光などの波動現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。				
評価の観点・ 評価の方法	（1） 知識・技能 （2） 思考力・判断力・表現力 （3） 主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・確認テスト、4回の定期考査。 評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着				
教科書・教材等	教科書 「物理」（東京図書） 問題集 「三訂版 リードLight ノート物理」（数研出版）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	平面運動と剛体のつりあい	平面内での物体の運動について、また大きさのある剛体の重心やつり合いの関係について学習する。	16	直線運動を拡張した平面運動について理解する。 自由落下や鉛直投げの内容を確認し、水平投射や斜方投射のそれぞれの運動について理解する。 空気抵抗の特徴について理解する。 剛体にはたらく力のはたらきについて理解する。
5				
6	運動量の保存	運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学習する。	16	運動量の変化と力積の関係を理解する。 物体にはたらく力の大きさの変化する場合について、力と時間のグラフより、平均の力を理解する。 直線上や平面上での衝突、物体の分裂や合体する場合で、運動量保存の法則が成り立つことを理解する。 反発係数を学習する。
7				
8	円運動と単振動	周期的な運動のもととなる力の性質や、運動の様子について学習する。 万有引力の法則を学び、天体、人工衛星や探査機などの運動を学習する。	16	等速円運動を学習し、加速度と向心力を理解する。 遠心力を含めた慣性力を学習し、異なる観測者の立場で把握できるようにする。 単振動におけるエネルギーの関係を理解する。 ケプラーの法則、万有引力の法則を学習し、万有引力と重力の関係を定量的に理解する。
9				
10	気体の性質と分子の運動	気体の温度・圧力・体積のようなマクロな量と、気体分子の速さのようなミクロな量との関係を考え、熱機関の原理を学習する。	15	気体に関する法則を学習し、理想気体の状態方程式について理解する。気体の圧力を分子レベルで求めることを理解する。熱力学第1法則を理解し、気体の各状態変化で熱力学第1法則を適用する。熱効率を気体の状態変化と関連させて理解する。
11				
11	波の伝わり方	波の性質をさらに掘り下げて学習し、平面や空間を伝わる光の波の様子、その性質を学習する。	15	正弦波の式、位相について理解する。水面波の干渉を学習し、ホイヘンスの原理、平面波の反射・屈折、波の回折など、波の伝わり方について理解する。
12				
12	音波	私たちにあって、最も身近な波動の1つである音波について学習する。	15	音波の性質や伝わり方について理解する。波源の移動と波長の変化から、音源や観測者が動くさまざまな場合のドップラー効果について、理解する。
1				
1	光波	光の進み方や波としての光の性質を学習する。	15	凹凸レンズの性質を学習し、実像、虚像のでき方のしくみを、レンズの式や倍率の式を用いて理解する。 光の干渉条件を理解する。
2				
3				

教科名	保健体育	科目名	体育（体育）	単位数	2単位
対象学年	第2学年		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	「運動」 ① 集団行動 ② 体づくり運動 ③ 球技 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 「体育理論」 ① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方 理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようになる。				
評価の観点・ 評価の方法	評価のポイント ① 関心・意欲・態度・・・・・・・・出欠見学状況・服装・提出物 ② 思考・判断（表現・創造）・・・・安全への配慮・健康管理・集団への協力 ③ 運動の技能・知識・理解・・・・各単位の実技テスト・自己評価 評価は各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。				
学習方法	① 教師主導による実技を中心とした学習 ② グループ学習（場合によっては習熟度別学習を行う）				
教科書・教材等	現代高等保健体育（大修館）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の注意事項	1	学校の教育活動全体や授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。
	集団行動	集合・整頓・列の増減	2	集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。
5	体づくり運動	トレーニング・ストレッチ体操・徒手体操	4	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立てて実生活に役立てる。
	新体力テスト	全9種目	7	正しい測定の仕方を理解し、安全に留意してできるようにする。自己の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持ち実践できるようにする。
6	長距離	ペース走・駅伝	8	記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わう。
7	球技	バドミントン	12	状況に応じたシャトルの操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。
8				
9		バレーボール	12	状況に応じて安定したボールの操作を行い、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。
10	校内体育大会種目練習	(バレー、ドッジボール、大縄)	10	自己の役割を良く理解し、責任を果たし、互いに協力できるようにする。
11				体力増進とともに、安全に気を配りながら運動を行うことができる。
12				
1		卓球	12	ゲームの特性を活かし、学習段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃への連携を活かしたゲームができるようにする。
2		バスケットボール	12	ゲームが円滑に楽しくできるよう、ドリブルやシュートの練習を繰り返し行う。
3				個人技能や集団技能を活用して、学習段階に応じた作戦を立てゲームをする。

科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1 単位
対象学年	第 2 学年（全）		履修形態	必修	
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	生涯を通じる健康 ① ライフステージと健康 ② 思春期と健康 ③ 性意識と性行動の選択 ④ 妊娠・出産と健康 ⑤ 避妊法と人工妊娠中絶 ⑥ 結婚生活と健康 ⑦ 中高年期と健康 ⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害と健康 ⑩ 健康的な職業生活 健康を支える環境づくり ① 大気汚染と健康 ② 水質汚濁・土壌汚染と健康 ③ 環境と健康にかかわる対策 ④ ごみの処理と上下水道の整備 ⑤ 食品の安全性 ⑥ 食品の衛生にかかわる活動 ⑦ 保健サービスとその活用 ⑧ 医療サービスとその活用 ⑨ 医薬品の制度とその活用 ⑩ さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪ 健康に関する環境づくりと社会参加				
評価の観点・ 評価の方法	定期考査 ① 関心・意欲・態度・・・出欠状況・提出物・学習態度 ② 思考・判断・・・発表 ③ 知識・理解・・・自己評価				
学習方法	教科書の解説とノートの演習 グループ学習・・・テーマについて考え、意見交換。 ビデオ学習				
教科書・教材等	教科書『現代保健体育』（大修館書店） 副読本『図説 現代高等保健』（大修館書店） ビデオ				

年 間 授 業 計 画

項 目	学 習 内 容	時 間	学習のポイント・評価等
生涯を通じる健康			
1. ライフステージと健康	・思春期の体と健康、思春期の心と健康		1.思春期における体の発達の特徴および行動面・心理面の特徴が説明できる。
2. 思春期と健康	・性意識の男女差と性的欲求		2.性的欲求の発現で性意識の男女差を説明できる。
3. 性意識と性行動の選択	・性にかんする情報と性行動		3.受精・妊娠・出産の過程を説明できる。
4.妊娠・出産と健康	・受精・妊娠・出産・妊娠、出産期		4.家族計画の意義を十分に把握させる。
5. 避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画、避妊法、人工妊娠中絶		
6. 結婚生活と健康	・健康な結婚生活と家族の健康		5.健康な結婚生活を営む留意点を知る。
7. 中高年期と健康	・加齢と心身の変化、中高年期		6.加齢にともなう心身の変化を説明できる。
8. 働くことと健康	・高齢者の健康とその支援		7.高齢者の健康課題および高齢化社会の課題を説明できる。
9. 労働災害と健康	・働くことと健康、働く人と健康		8.働く人の健康問題を理解させる。
10. 健康的な職業生活	・労働災害の防止、職業病の予防		9.職場における健康管理の必要性がわかる。
健康を支える環境づくり	・職場、日常生活におけるとりくみ		10.職場での健康増進の課題をつかませる
1. 大気汚染と健康			1 学期期末考査
2. 水質汚濁・土壌汚染と健康			
3. 環境と健康にかかわる対策	・大気汚染の原因と健康影響		1.大気汚染の原因物質を説明できる。
4. ごみの処理と上下水道の整備	・水質汚濁の原因と健康影響		2.水質汚濁の原因物質を説明できる。土壌汚染の原因物質を説明できる。
5. 食品の安全性	・水質汚濁の原因と健康影響		
6. 食品の衛生にかかわる活動	・環境汚染のかかわり		3.環境汚染のかかわりを例を上げ説明できる。環境汚染の防止・改善対策を説明できる。
7. 保健サービスとその活用	・環境汚染の防止と改善		
8. 医療サービスとその活用	・ごみの処理		4.ごみ処理の過程を説明できる。ごみ・し尿や上下水道の整備について説明できる。
9. 医薬品の制度とその活用	・上下水道の整備とし尿の処理		5.食品衛生管理の具体例を知る。
10. さまざまな保健活動や社会的対策	・食品の安全性と行政の役割		6.食品の安全性を確保する方法を知る。
11. 健康に関する環境づくりと社会参加	・食品製造過程における衛生管理		2 学期末考査
	・食品の安全、環境保健		
	・保健・医療・福祉の連携		7.保健行政の役割と仕組みについて説明できる。
	・医療サービス		8.医療保険のしくみがわかる。
	・医療の供給と医療保険、医療費		9.医療機関の活用の仕方がわかる。
	・医療機関とその役割		
	・保健行政の役割よしくみ		10. 保健サービスのしくみがわかる。
	・保健サービス		

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 書いたり話したりして，情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ，背景にある文化を理解することができる。				
学習内容の概要	1. 本文を素材として，「読む」「聞く」「話す」「書く」の 4 技能をバランスよく育成する。 2. 学んだことを使いながら定着させ，学びを深める言語活動を行う。 3. 「日常的な題材」「社会的な題材」を通して，国際社会に通じる発信力を高める。 4. I C T 機器を用いて，教室だけでなく家庭でも音声や動画を活用した学習を行う。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点 1. 知識・技能 学習した語彙，表現，文法について理解を深め，それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について，話し手や書き手の考えを理解し，情報を整理しながら自分の考えをまとめ，即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり，活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり，自ら学習方法を改善しようとしている。 評価の方法 1. 言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） 2. 各レッスンの課末 Action のパフォーマンステスト（思考・判断・表現，主体的に取り組む態度） 3. ノート，スタディノート，WORKBOOK の内容や提出状況（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） 4. 小テスト，定期考査（知識・技能，思考・判断・表現）				
学習方法	1. Oral Introduction を行い，レッスンの題材への興味・関心を高める。 2. 本文を読みながら，教師と生徒，生徒同士のやり取りを通して理解を深めていく。 3. 本文の理解度を確認したうえで，内容を自分ごと化し， Retelling 活動を用いたアウトプットにつなげる。 4. Review では，本文の内容，語彙，重要表現，文法を定着させる。 5. Action では，本文で学んだ知識を利用して，4 技能統合活動に取り組む。				
教科書・教材等	Power On English Communication II（東京書籍） Power On English Communication II WORKBOOK （東京書籍） Power On English Communication II スタディノート（東京書籍） 総合英語 One（アルク） 夢をかなえる英単語 新ユメタン 1（アルク）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Tips for Reading 1 Tips for Reading 2 Tips for Reading 3	フレーズリーディング ディスコースマーカー 接頭辞・接尾辞	12	スラッシュの区切りや句読法の使い方について理解している。 ディスコースマーカーの使い方について理解している。 語の意味の推測を助ける接頭辞・接尾辞の知識を身につけている。
5	Lesson 1 Play Me, I'm Yours Sounds Interesting! 1	ストリートピアノにつ いてのテレビレポート 目立たない音節	16	助動詞＋動詞の原形／受け身／S＋V[be 動詞以外]＋ C 目立たない音節（弱母音の/E/と/I/）の特徴を理解して いる。
6	Lesson 2 Ethical Fashion Lesson 3 One for All, All for One Sounds Interesting! 2	現代のエシカルファッショ ンについてのニュース記事 ラグビー選手のマイケル・リ ーチ選手へのインタビュー 目立つ音節	16	S＋V＋O＋C[形容詞]／S＋V[使役]＋O＋C[原形不定 動詞]／S＋V[知覚]＋O＋C[現在分詞, 原形不定動詞] 現在完了形／過去完了形／仮定法過去の if 節 目立つ音節（第一強勢と第二強勢）の特徴を理解して いる。
7	Lesson 4 Vending Machines Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue Essay Writing 1	日本の自動販売機、海外の自動販 売機についてのオンライン記事 ユニバーサルデザインのフォ ントについての雑誌記事 エッセイの構成要素	16	関係代名詞（主格）／関係代名詞の非制限用法／関係 代名詞（目的格） 助動詞＋受け身／S＋V＋C[分詞]／S＋V＋O[if 節] ／It seems [appears]＋that 節 エッセイの構成要素（序論・本論・結論）とその役割 を理解している。
9	Lesson 6 New Banknotes Sounds Interesting! 3	新紙幣にまつわる話やキャッシュレ ス化についてのオンライン記事 音のつながり	16	It＋is [was]＋said＋that 節／形式目的語 it と that 節／ 形式目的語 it と to 不定詞／助動詞＋have＋過去分詞 音のつながり（子音と母音が連続する場合）の特徴を 理解している。
10	Lesson 7 Some Secrets about Colors Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem Lesson 9 Flying after Her Dreams Sounds Interesting! 4	色が私たちに与える影響や色の持 つ心理的効果についての論説文 納豆パウダーの誕生秘話と世界 へ広がる様子についての論説文 リズム	16	関係代名詞（所有格）／同格を表す接続詞 that／前置 詞＋関係代名詞／関係副詞 where の非制限用法 強調構文／強調の助動詞 do／直前の文を先行詞とす る関係代名詞 which／to＋have＋過去分詞 リズム（目立つ音節のビート）の特徴を理解している。
11	Lesson 9 Flying after Her Dreams Sounds Interesting! 5	アメリカで黒人女性初のパイロットと なったベシー・コールマンの伝記 イントネーション	16	譲歩を表す副詞節／no matter how [where, when]／ 仮定法過去完了／分詞構文（過去分詞） イントネーション（その型と意味）の特徴を理解して いる。
12	Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robots Essay Writing 2 Sounds Interesting! 6	日本が誇るロボットやロボットの 労働などについての論説文 エッセイのアウトライン 弱形と強形	12 12	過去完了進行形／be＋to 不定詞／未来完了形／insist など＋that＋S＋V[動詞の原形] エッセイ作成時のアウトラインの作り方と活用方法 を理解している。 弱形と強形（前置詞・助動詞・代名詞）の特徴と使い 分けを理解している。
1	Optional Reading I am Yusra. I am a refugee and I'm proud to stand for peace.	競泳選手ユスラ・マルデ ィーニさんが難民の状 況について世界に向け て伝えるスピーチ	16	文と文、段落と段落のつながりを示す語句を理解して いる。
3			12	

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4 単位
対象学年	第 2 学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 書いたり話したりして，情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ，背景にある文化を理解することができる。				
学習内容の概要	1. 本文を素材として，「読む」「聞く」「話す」「書く」の 4 技能をバランスよく育成する。 2. 学んだことを使いながら定着させ，学びを深める言語活動を行う。 3. 「日常的な題材」「社会的な題材」を通して，国際社会に通じる発信力を高める。 4. I C T 機器を用いて，教室だけでなく家庭でも音声や動画を活用した学習を行う。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点 1. 知識・技能 学習した語彙，表現，文法について理解を深め，それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について，話し手や書き手の考えを理解し，情報を整理しながら自分の考えをまとめ，即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり，活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり，自ら学習方法を改善しようとしている。 評価の方法 1. 言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） 2. 各レッスンの課末 Action のパフォーマンステスト（思考・判断・表現，主体的に取り組む態度） 3. ノート，スタディノート，WORKBOOK の内容や提出状況（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） 4. 小テスト，定期考査（知識・技能，思考・判断・表現）				
学習方法	1. Oral Introduction を行い，レッスンの題材への興味・関心を高める。 2. 本文を読みながら，教師と生徒，生徒同士のやり取りを通して理解を深めていく。 3. 本文の理解度を確認したうえで，内容を自分ごと化し， Retelling 活動を用いたアウトプットにつなげる。 4. Review では，本文の内容，語彙，重要表現，文法を定着させる。 5. Action では，本文で学んだ知識を利用して，4 技能統合活動に取り組む。				
教科書・教材等	Power On English Communication II（東京書籍） Power On English Communication II WORKBOOK （東京書籍） Power On English Communication II スタディノート（東京書籍） 総合英語 One （アルク） 夢をかなえる英単語 新ユメタン 1（アルク）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Tips for Reading 1 Tips for Reading 2 Tips for Reading 3	フレーズリーディング ディスコースマーカー 接頭辞・接尾辞	12	スラッシュの区切りや句読法の使い方について理解している。 ディスコースマーカーの使い方について理解している。 語の意味の推測を助ける接頭辞・接尾辞の知識を身につけている。
5	Lesson 1 Play Me, I'm Yours Sounds Interesting! 1	ストリートピアノにつ いてのテレビレポート 目立たない音節	16	助動詞＋動詞の原形／受け身／S＋V[be 動詞以外]＋ C 目立たない音節（弱母音の/E/と/I/）の特徴を理解して いる。
6	Lesson 2 Ethical Fashion Lesson 3 One for All, All for One Sounds Interesting! 2	現代のエシカルファッショ ンについてのニュース記事 ラグビー選手のマイケル・リ ーチ選手へのインタビュー 目立つ音節	16	S＋V＋O＋C[形容詞]／S＋V[使役]＋O＋C[原形不定 動詞]／S＋V[知覚]＋O＋C[現在分詞, 原形不定動詞] 現在完了形／過去完了形／仮定法過去の if 節 目立つ音節（第一強勢と第二強勢）の特徴を理解して いる。
7	Lesson 4 Vending Machines Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue Essay Writing 1	日本の自動販売機、海外の自動販 売機についてのオンライン記事 ユニバーサルデザインのフォ ントについての雑誌記事 エッセイの構成要素	16	関係代名詞（主格）／関係代名詞の非制限用法／関係 代名詞（目的格） 助動詞＋受け身／S＋V＋C[分詞]／S＋V＋O[if 節] ／It seems [appears]＋that 節 エッセイの構成要素（序論・本論・結論）とその役割 を理解している。
9	Lesson 6 New Banknotes Sounds Interesting! 3	新紙幣にまつわる話やキャッシュレ ス化についてのオンライン記事 音のつながり	16	It＋is [was]＋said＋that 節／形式目的語 it と that 節／ 形式目的語 it と to 不定詞／助動詞＋have＋過去分詞 音のつながり（子音と母音が連続する場合）の特徴を 理解している。
10	Lesson 7 Some Secrets about Colors Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem Lesson 9 Flying after Her Dreams Sounds Interesting! 4	色が私たちに与える影響や色の持 つ心理的効果についての論説文 納豆パウダーの誕生秘話と世界 へ広がる様子についての論説文 リズム	16	関係代名詞（所有格）／同格を表す接続詞 that／前置 詞＋関係代名詞／関係副詞 where の非制限用法 強調構文／強調の助動詞 do／直前の文を先行詞とす る関係代名詞 which／to＋have＋過去分詞 リズム（目立つ音節のビート）の特徴を理解している。
11	Lesson 9 Flying after Her Dreams Sounds Interesting! 5	アメリカで黒人女性初のパイロットと なったベシー・コールマンの伝記 イントネーション	16	譲歩を表す副詞節／no matter how [where, when]／ 仮定法過去完了／分詞構文（過去分詞） イントネーション（その型と意味）の特徴を理解して いる。
12	Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robots Essay Writing 2 Sounds Interesting! 6	日本が誇るロボットやロボットの 労働などについての論説文 エッセイのアウトライン 弱形と強形	12 12	過去完了進行形／be＋to 不定詞／未来完了形／insist など＋that＋S＋V[動詞の原形] エッセイ作成時のアウトラインの作り方と活用方法 を理解している。 弱形と強形（前置詞・助動詞・代名詞）の特徴と使い 分けを理解している。
1	Optional Reading I am Yusra. I am a refugee and I'm proud to stand for peace.	競泳選手ユスラ・マルデ ィーニさんが難民の状 況について世界に向け て伝えるスピーチ	16	文と文、段落と段落のつながりを示す語句を理解して いる。
3			12	

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4 単位
対象学年	第 2 学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして，情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ，背景にある文化を理解することができる。				
学習内容の概要	1. 〔聞くこと〕 音声教材を用いて，情報の概要や要点を聞き取る。 2. 〔読むこと〕 本文の内容について，中心情報や中心話題を読み取る。 3. 〔話すこと〕 ペアワークを多用した音読練習を行う。課の最後には，本文の内容に基づいた簡単な発表を行う。 4. 〔書くこと〕 本文の内容について，穴埋め形式などを使って英文を書く練習をする。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点 1. 知識・技能 学習した語彙，表現，文法について理解を深め，それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について，話し手や書き手の考えを理解し，情報を整理しながら自分の考えをまとめ，即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり，活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり，自ら学習方法を改善しようとしている。 評価の方法 1. 言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） 2. 各レッスンの課末 Action のパフォーマンステスト（思考・判断・表現，主体的に取り組む態度） 3. ノート，スタディノート，WORKBOOK の内容や提出状況（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） 小テスト，定期考査（知識・技能，思考・判断・表現）				
学習方法	1. 各課で取り扱う題材について，背景資料などを用いて興味・関心を深める。 2. 本文の概要，要点などを的確に捉えながら，正しく読みとっていく力を養う。 3. 音声教材を用い，ネイティブスピーカーの発音，イントネーション，スピードに慣れ，リスニング力を高める。 4. 発音やイントネーションを意識しながら音読練習を行う。また，ペアワークによる音読を通して，相手に伝える力と聞き取る力を養う。 5. 各課ごとに本文の内容をリテリングする簡単な発表を行う。 6. 各課ごとに単元テストを行ない，既習事項の定着度を確認する。 7. ワークブックを活用し，予習・復習の習慣化を図る。 8. 各課ごとにノートおよびワークブックを確認する。 9. A L T の授業を通して，英語に慣れるとともに英語の運用能力を高める。				
教科書・教材等	Amity English Communication II（東京書籍） Amity English Communication II WORKBOOK（東京書籍） 夢をかなえる英単語 新ユメタン 0（アルク）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	Okinawa 沖縄の魅力	12	英語コミュニケーション I の復習
5	Lesson 2	The History of Japanese Food 日本食の歴史	16	英語コミュニケーション I の復習
6	Lesson 3	Volunteer Work 病院で診察	16	英語コミュニケーション I の復習
7	Lesson 4	Gacha-gacha ガチャガチャ	16	SVOO・SVOC
8	Lesson 5	Interesting Aquariums おもしろ水族館	16	形式主語・形式目的語
9	Lesson 6	The Relay of Ahmed's Life アハメドくんのいのち のリレー	16	知覚動詞・使役動詞
10	Lesson 7	Artificial Intelligence AI ロボットの未来	16	接続詞・前置詞
11	Lesson 8	The Mystery of Colors 色の不思議	16	現在完了・現在完了進行形
12	Lesson 9	Street Performers ストリートパフォーマー	12	分詞の形容詞的用法
1	Lesson10	The Culture of Selfies 自撮り文化	12	関係代名詞（制限用法・非制限用法）
2	Lesson11	Finland フィンランド	16	関係副詞
3	Lesson12	In Order to Live a Happy 幸せな人生にするため に	12	仮定法

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4単位
対象学年	第2学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。				
学習内容の概要	1. 〔聞くこと〕音声教材を用いて、情報の概要や要点を聞き取る。 2. 〔読むこと〕本文の内容について、中心情報や中心話題を読み取る。 3. 〔話すこと〕ペアワークを多用した音読練習を行う。課の最後には、本文の内容に基づいた簡単な発表を行う。 4. 〔書くこと〕本文の内容について、穴埋め形式などを使って英文を書く練習をする。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点 1. 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について、話し手や書き手の考えを理解し、情報を整理しながら自分の考えをまとめ、即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 評価の方法 1. 言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 2. 各レッスンの課末 Action のパフォーマンステスト（思考・判断・表現、主体的に取り組む態度） 3. ノート、スタディノート、WORKBOOK の内容や提出状況（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 小テスト、定期考査（知識・技能、思考・判断・表現）				
学習方法	1. 各課で取り扱う題材について、背景資料などを用いて興味・関心を深める。 2. 本文の概要、要点などを的確に捉えながら、正しく読みとっていく力を養う。 3. 音声教材を用い、ネイティブスピーカーの発音、イントネーション、スピードに慣れ、リスニング力を高める。 4. 発音やイントネーションを意識しながら音読練習を行う。また、ペアワークによる音読を通して、相手に伝える力と聞き取る力を養う。 5. 各課ごとに本文の内容をリテリングする簡単な発表を行う。 6. 各課ごとに単元テストを行ない、既習事項の定着度を確認する。 7. ワークブックを活用し、予習・復習の習慣化を図る。 8. 各課ごとにノートおよびワークブックを確認する。 9. A L Tの授業を通して、英語に慣れるとともに英語の運用能力を高める。				
教科書・教材等	Amity English Communication II（東京書籍） Amity English Communication II WORKBOOK（東京書籍） 夢をかなえる英単語 新ユメタン0（アルク）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	Okinawa 沖縄の魅力	12	英語コミュニケーション I の復習
5	Lesson 2	The History of Japanese Food 日本食の歴史	16	英語コミュニケーション I の復習
6	Lesson 3	Volunteer Work 病院で診察	16	英語コミュニケーション I の復習
7	Lesson 4	Gacha-gacha ガチャガチャ	16	SVOO・SVOC
8	Lesson 5	Interesting Aquariums おもしろ水族館	16	形式主語・形式目的語
9	Lesson 6	The Relay of Ahmed's Life アハメドくんのいのち のリレー	16	知覚動詞・使役動詞
10	Lesson 7	Artificial Intelligence AI ロボットの未来	16	接続詞・前置詞
11	Lesson 8	The Mystery of Colors 色の不思議	16	現在完了・現在完了進行形
12	Lesson 9	Street Performers ストリートパフォーマー	12	分詞の形容詞的用法
1	Lesson10	The Culture of Selfies 自撮り文化	12	関係代名詞（制限用法・非制限用法）
2	Lesson11	Finland フィンランド	16	関係副詞
3	Lesson12	In Order to Live a Happy 幸せな人生にするため に	12	仮定法

教科名	英語	科目名	論理表現Ⅱ	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コース文系）		履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。				
学習内容の概要	1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。 2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。 3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点 1. 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について、話し手や書き手の考えを理解し、情報を整理しながら自分の考えをまとめ、即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 評価の方法 1. 言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 2. 各レッスンのパフォーマンステスト（思考・判断・表現、主体的に取り組む態度） 3. ノート、WORKBOOK の内容や提出状況（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 小テスト、定期考査（知識・技能、思考・判断・表現）				
学習方法	1 コミュニケーション能力を養うため、実際の会話に即した言語活動を多く取り入れながら英語表現を使って会話する。 2 研修旅行で使用できる英会話表現を使った言語活動を、継続して経験する。 2 補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 5 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 6 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。				
教科書・教材等	NEW FAVORITE English Logic and Expression（三省堂） 準拠 ワークブック 補助プリント ユメタン1（アルク）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Unit 1 Lesson1	友だちに報告する	6	訂正する、心配する、感謝する
5	Lesson2	日本での初登校		驚く、繰り返す、言い換える
	Lesson3	経験についてのスピーチ	8	注意を引く、同意を求める
6	Lesson4	ファンレター	8	望む、褒める
	Lesson5	イベントに誘う		誘う、説明する
7	Lesson6	図書館で資料さがし	8	聞き直す、依頼する
8	Lesson7	翻訳についてのスピーチ		要約する、言い換える
9	Lesson8	通信販売で返品依頼	8	困ったことを伝える・説明する、控えめに依頼する
	Lesson9	タクシーに乗る		依頼する、提案する
10	Lesson10	友達とディスカッション	8	仮定する、反対する
	Lesson11	比較結果のプレゼンテーション		報告する、比較して説明する
11	Lesson12	就きたい職業	8	説明する、理由を述べる、仮定する
	Unit2 Lesson1	クラスでディベート①		推論する、賛成・反対する
12	Lesson2	クラスでディベート②	6	主張する、推論する、賛成・反対する
	Lesson3	クラスでディベート③		推論する、説得する
1	Lesson4	調査結果のプレゼンテーション	6	報告する、望む
2	Lesson5	社会問題についてのスピーチ	8	説明する、主張する、提案する
	Lesson6	仮定して推論する		仮定する、推論する
3	Lesson7	比較して説明する	6	比較する、類似点と相違点を説明する
	Lesson8	読み手を説得する		主張する、説得する

教科名	英語	科目名	論理表現Ⅱ	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コース理系）		履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。				
学習内容の概要	1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。 2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。 3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点 1. 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について、話し手や書き手の考えを理解し、情報を整理しながら自分の考えをまとめ、即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 評価の方法 1. 言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 2. 各レッスンのパフォーマンステスト（思考・判断・表現、主体的に取り組む態度） 3. ノート、WORKBOOK の内容や提出状況（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 小テスト、定期考査（知識・技能、思考・判断・表現）				
学習方法	1 コミュニケーション能力を養うため、実際の会話に即した言語活動を多く取り入れながら英語表現を使って会話する。 2 研修旅行で使用できる英会話表現を使った言語活動を、継続して経験する。 2 補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 5 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 6 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。				
教科書・教材等	NEW FAVORITE English Logic and Expression（三省堂） 準拠 ワークブック 補助プリント ユメタン1（アルク）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Unit 1 Lesson1	友だちに報告する	6	訂正する、心配する、感謝する
5	Lesson2	日本での初登校		驚く、繰り返す、言い換える
	Lesson3	経験についてのスピーチ	8	注意を引く、同意を求める
6	Lesson4	ファンレター	8	望む、褒める
	Lesson5	イベントに誘う		誘う、説明する
7	Lesson6	図書館で資料さがし	8	聞き直す、依頼する
8	Lesson7	翻訳についてのスピーチ		要約する、言い換える
9	Lesson8	通信販売で返品依頼	8	困ったことを伝える・説明する、控えめに依頼する
	Lesson9	タクシーに乗る		依頼する、提案する
10	Lesson10	友達とディスカッション	8	仮定する、反対する
	Lesson11	比較結果のプレゼンテーション		報告する、比較して説明する
11	Lesson12	就きたい職業	8	説明する、理由を述べる、仮定する
	Unit2 Lesson1	クラスでディベート①		推論する、賛成・反対する
12	Lesson2	クラスでディベート②	6	主張する、推論する、賛成・反対する
	Lesson3	クラスでディベート③		推論する、説得する
1	Lesson4	調査結果のプレゼンテーション	6	報告する、望む
2	Lesson5	社会問題についてのスピーチ	8	説明する、主張する、提案する
	Lesson6	仮定して推論する		仮定する、推論する
3	Lesson7	比較して説明する	6	比較する、類似点と相違点を説明する
	Lesson8	読み手を説得する		主張する、説得する

教科名	英語	科目名	英語活用	単位数	2 単位
対象学年	第2 学年（進学・キャリア グローバル）		履修形態	選択	
科目の目標	1. 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答することができる。 2. 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりすることができる。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。				
学習内容の概要	1. 「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」の3 領域の育成に適した日常的・社会的な場面の活動を通じて、本物のコミュニケーション力を育成する。 2. 失敗することを恐れず、発信する態度を養う。 3. 「まねる」から一歩踏み出し、テーマを「自分ごと化」して考え、発信できる力を育む。 4. I C T機器を用いて、教室だけでなく家庭でも音声や動画を活用した学習を行う。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点 1. 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について、話し手や書き手の考えを理解し、情報を整理しながら自分の考えをまとめ、即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 評価の方法 1. KEY EXPRESSIONS の内容理解を確認する。（知識・技能、思考・判断・表現） 2. LISTENING への取り組みを評価する。（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 3. COMMUNICATION への取り組みを評価する。（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 4. 小テスト、定期考査（知識・理解） 5. ノート、WORKBOOK の内容や提出状況（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）				
学習方法	1. 既習事項の抜け・漏れがないか、確認しながら授業を進める。 2. 英語での発信に、ペアで取り組むことで、自らの英語力を把握し、コミュニケーションへの関心・意欲を喚起する。 3. 語彙や表現の支援をしながら、言語活動が「自分ごと化」するように促す。 4. 各課の最終タスクにおいて「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」を通じて、自らの発信力の上達を実感できるよう工夫する。 5. ワークブック、ワークシートを用いて、学習した表現の定着を図る。				
教科書・教材等	SELECT English Conversation（三省堂） SELECT English Conversation WORKBOOK（三省堂） ワークシート				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	スターになって 自己紹介 Lesson 1	自己紹介ゲーム 興味あるものを言う	6	未来表現／不定詞（名詞用法）
5	New Friends Lesson 2 Free Time Lesson 3 Are You Okay?	余暇について話す 体調について話す	8	現在形／過去形 助動詞 should
6	亜紀と拓の留学 日記 1 The Host Family's House Games in English 1: Square Game	海外生活・ホームステイ 先でのアドバイスを話 す 英語でゲーム 1	8	
7	Lesson 4	学校について話す	8	There is / are ～ .
8	Our School Lesson 5 Weather Lesson 6	天気・気候について話す 自分の好みを言う	8	助動詞 will 動名詞
9	TV Programs 亜紀と拓の留学 日記 2 Helping the Family Games in English 2:	海外生活・ホームステイ 先での日常会話を学ぶ 英語でゲーム 2	8	
10	Guess What! Game Lesson 7 Talking on a Cell Phone Lesson 8 Telling the Way	都合をたずねる、待ち合 わせをする 道をたずねる	8	現在完了形 S+V+O+O の文型
11	亜紀と拓の留学 日記 3 School Life Lesson 9 Kyoto	海外生活・学校での会話 を学ぶ 乗り物での行き方をた ずねる	8	How long ～ ?
12	Lesson 10 Shopping Lesson 11	欲しいものを買う 食事を注文する	6	現在進行形／S+V+C の文型 不定詞（形容詞用法）
1	Restaurant 亜紀と拓の留学 日記 4	海外生活・観光に必要な 会話を学ぶ	6	
2	Enjoying Holidays Games in English 3: Math Bingo Game Lesson 12	英語でゲーム 3 誘う、誘いに応じる	8	Let's ～ ./ Shall we ～ ?
3	Making a Plan Lesson 13 Future Jobs	なりたい職業について 話す	6	Why-Because／不定詞（副詞用法）

教科名	英語	科目名	英語活用	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年（進学・キャリア ローカル）		履修形態	選択	
科目の目標	1. 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答することができる。 2. 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりすることができる。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。				
学習内容の概要	1. 「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」の 3 領域の育成に適した日常的・社会的な場面の活動を通じて、本物のコミュニケーション力を育成する。 2. 失敗することを恐れず、発信する態度を養う。 3. 「まねる」から一歩踏み出し、テーマを「自分ごと化」して考え、発信できる力を育む。 4. I C T 機器を用いて、教室だけでなく家庭でも音声や動画を活用した学習を行う。				
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点 1. 知識・技能 学習した語彙、表現、文法について理解を深め、それを適切に運用して自分の考えや気持ちを表現する技能を身につけている。 2. 思考・判断・表現 日常的な場面や社会的な話題について、話し手や書き手の考えを理解し、情報を整理しながら自分の考えをまとめ、即興や臨機応変にコミュニケーションを図る。 3. 主体的に学習に取り組む態度 知識や技能を主体的に身につけようと努力したり、活動の中で思考力・判断力・表現力を身につけようと粘り強く取り組んだり、自ら学習方法を改善しようとしている。 評価の方法 1. KEY EXPRESSIONS の内容理解を確認する。（知識・技能、思考・判断・表現） 2. LISTENING への取り組みを評価する。（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 3. COMMUNICATION への取り組みを評価する。（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度） 4. 小テスト、定期考査（知識・理解） 5. ノート、WORKBOOK の内容や提出状況（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）				
学習方法	1. 既習事項の抜け・漏れがないか、確認しながら授業を進める。 2. 英語での発信に、ペアで取り組むことで、自らの英語力を把握し、コミュニケーションへの関心・意欲を喚起する。 3. 語彙や表現の支援をしながら、言語活動が「自分ごと化」するように促す。 4. 各課の最終タスクにおいて「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」を通じて、自らの発信力の上達を実感できるよう工夫する。 5. ワークブック、ワークシートを用いて、学習した表現の定着を図る。				
教科書・教材等	SELECT English Conversation（三省堂） SELECT English Conversation WORKBOOK（三省堂） ワークシート				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	スターになって 自己紹介 Lesson 1	自己紹介ゲーム 興味あるものを言う	6	未来表現／不定詞（名詞用法） 現在形／過去形 助動詞 should
5	New Friends Lesson 2 Free Time Lesson 3	余暇について話す 体調について話す	8	
6	Are You Okay? 亜紀と拓の留学 日記 1 The Host Family's House Games in English 1: Square Game	海外生活・ホームステイ 先でのアドバイスを話 す 英語でゲーム 1	8	
7	Lesson 4	学校について話す	8	There is / are ～ . 助動詞 will 動名詞
8	Our School Lesson 5 Weather Lesson 6	天気・気候について話す 自分の好みを言う	8	
9	TV Programs 亜紀と拓の留学 日記 2 Helping the Family Games in English 2: Guess What! Game	海外生活・ホームステイ 先での日常会話を学ぶ 英語でゲーム 2	8	
10	Lesson 7 Talking on a Cell Phone Lesson 8 Telling the Way	都合をたずねる, 待ち合 わせをする 道をたずねる	8	現在完了形 S+V+O+O の文型 How long ～?
11	亜紀と拓の留学 日記 3 School Life Lesson 9 Kyoto	海外生活・学校での会話 を学ぶ	8	
12	Lesson 10 Shopping Lesson 11	欲しいものを買う 食事を注文する	6	
1	Restaurant 亜紀と拓の留学 日記 4	海外生活・観光に必要な 会話を学ぶ	6	現在進行形／S+V+C の文型 不定詞（形容詞用法） Let's ～ ./ Shall we ～ ? Why-Because／不定詞（副詞用法）
2	Enjoying Holidays Games in English 3: Math Bingo Game Lesson 12	英語でゲーム 3 誘う, 誘いに応じる	8	
3	Making a Plan Lesson 13 Future Jobs	なりたい職業について 話す	6	

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年 特別進学コース		履修形態	必修	
科目の目標	ライフステージに応じて必要とされる、基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	(1) 家族・社会との共生 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活のあり方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解し、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識する。 (2) 生活の自立 家族の食生活・衣生活・住生活に必要な知識と技術を習得し、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。 (3) 生活の創造 家庭経済や消費生活に関する基本的な知識を習得するとともに、現代に消費生活の課題について認識し、消費者として責任をもって行動できるようにする。 ・ホームプロジェクトと家庭クラブ活動 各自が生活の中から課題を見出し、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。				
評価の観点・ 評価の方法	①知識・技能 衣食住、消費生活などの分野を学習し、生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を身に付けている。 ②思考・表現・判断 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決のために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造している。 自己や家族、地域社会の中で、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫がみられる。 ③主体的に学習に取り組む態度 自立した生活者に必要な知識・技能を身に付け、地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。 実習では主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 定期考査、出席状況、授業態度（実習の取り組み、姿勢等も含む）、課題・学習プリント、ノートの提出状況。				
学習方法	・各ライフステージの理解を深めるとともに、実習を通して実践的な態度を養う。 ・現在の生活を振り返り、よりよくするために具体的な事例や体験的な学習を通して、協力して家庭や地域の生活を創造できるようになる。				
教科書・教材等	教科書「家庭基礎（自立・共生・創造）東京書籍 副教材 家庭基礎 学習ノート 東京書籍 各種プリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4 5 6	第 6 章 食生活をつくる	①食生活の課題について考える ②食事と栄養・食品 ③食生活の選択と安全 ④生涯の健康を見通した食事計画 ⑤調理の基礎 ⑥食生活の文化と知恵 ⑦日本の伝統的な文化	6 8 8	・ 5 大栄養素の種類と特徴を理解する。 ・ 食品添加物等を理解し、衛生面、安全面に気を付けて食生活を送ることができる。 ・ 日本の食文化への理解を深め、これからの食生活を創造することができる。 ・ 各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解する。	
7 8 9	第 3 章 子どもと共に育つ	①命を育む ②子どもの育つ力を知る ③子どもと関わる ④子どもとの触れ合いから学ぶ ⑤これからの保育環境	8 8 8	・ 子どもの心身の発達を知り、食生活・衣生活・健康管理・安全性について理解を深める。 ・ 子どもの遊びの意義を理解する。 ・ 親になることを考え、子育てのためにどのような環境が整えられるかを考えさせる。	
10 11	第 4 章 高齢社会を生きる	①超高齢大衆長寿社会の到来 ②高齢期の心身の特徴 ③ これからの超高齢社会	8 8	・ 加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・ 適切な支援の方法や関わり方を考え、行動できる。	
12 1 2	第 9 章 経済生活を営む	①情報の収集・比較と意思決定 ②購入・支払いのルールと方法 ③消費者の権利と責任 ④生涯の経済生活を見通す ⑤これからの消費生活と環境	8 8 8	・ 生涯を見通して経済生活をマネジメントする力を身につける。 ・ 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動がとれるよう、契約の重要性について理解する。 ・ 消費者の権利と責任について理解する。 ・ 経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて学ぶ。	
3	第 7 章 衣生活をつくる	①被服の役割を考える ②被服を入手する ③被服を管理する	8	・ 被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・ 被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につける。	
3	第 8 章 住生活をつくる	①住居の機能 ②安全で快適な住生活の計画	6	・ 住居の機能やライフステージごとの要住居を知り、豊かな住生活を創造できる。 ・ 環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を知る。	

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年 進学コース		履修形態	必修	
科目の目標	ライフステージに応じて必要とされる、基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	(1) 家族・社会との共生 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活のあり方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解し、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識する。 (2) 生活の自立 家族の食生活・衣生活・住生活に必要な知識と技術を習得し、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。 (3) 生活の創造 家庭経済や消費生活に関する基本的な知識を習得するとともに、現代に消費生活の課題について認識し、消費者として責任をもって行動できるようにする。 ・ホームプロジェクトと家庭クラブ活動 各自が生活の中から課題を見出し、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。				
評価の観点・ 評価の方法	①知識・技能 衣食住、消費生活などの分野を学習し、生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を身に付けている。 ②思考・表現・判断 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決のために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造している。 自己や家族、地域社会の中で、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫がみられる。 ③主体的に学習に取り組む態度 自立した生活者に必要な知識・技能を身に付け、地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。 実習では主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 定期考査、出席状況、授業態度（実習の取り組み、姿勢等も含む）、課題・学習プリント、ノートの提出状況。				
学習方法	・各ライフステージの理解を深めるとともに、実習を通して実践的な態度を養う。 ・現在の生活を振り返り、よりよくするために具体的な事例や体験的な学習を通して、協力して家庭や地域の生活を創造できるようになる。				
教科書・教材等	教科書「家庭基礎（自立・共生・創造）東京書籍 副教材 家庭基礎 学習ノート 東京書籍 各種プリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4 5 6	第 6 章 食生活をつくる	①食生活の課題について考える ②食事と栄養・食品 ③食生活の選択と安全 ④生涯の健康を見通した食事計画 ⑤調理の基礎 ⑥食生活の文化と知恵 ⑦日本の伝統的な文化	6 8 8	・ 5 大栄養素の種類と特徴を理解する。 ・ 食品添加物等を理解し、衛生面、安全面に気を付けて食生活を送ることができる。 ・ 日本の食文化への理解を深め、これからの食生活を創造することができる。 ・ 各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解する。	
7 8 9	第 3 章 子どもと共に育つ	①命を育む ②子どもの育つ力を知る ③子どもと関わる ④子どもとの触れ合いから学ぶ ⑤これからの保育環境	8 8 8	・ 子どもの心身の発達を知り、食生活・衣生活・健康管理・安全性について理解を深める。 ・ 子どもの遊びの意義を理解する。 ・ 親になることを考え、子育てのためにどのような環境が整えられるかを考えさせる。	
10 11	第 4 章 高齢社会を生きる	①超高齢大衆長寿社会の到来 ②高齢期の心身の特徴 ③ これからの超高齢社会	8 8	・ 加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・ 適切な支援の方法や関わり方を考え、行動できる。	
12 1 2	第 9 章 経済生活を営む	①情報の収集・比較と意思決定 ②購入・支払いのルールと方法 ③消費者の権利と責任 ④生涯の経済生活を見通す ⑤これからの消費生活と環境	8 8 8	・ 生涯を見通して経済生活をマネジメントする力を身につける。 ・ 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動がとれるよう、契約の重要性について理解する。 ・ 消費者の権利と責任について理解する。 ・ 経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて学ぶ。	
3	第 7 章 衣生活をつくる	①被服の役割を考える ②被服を入手する ③被服を管理する	8	・ 被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・ 被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につける。	
3	第 8 章 住生活をつくる	①住居の機能 ②安全で快適な住生活の計画	6	・ 住居の機能やライフステージごとの要住居を知り、豊かな住生活を創造できる。 ・ 環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を知る。	

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2 単位
対象学年	第2 学年 キャリアコース		履修形態	必修	
科目の目標	ライフステージに応じて必要とされる、基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	(1) 家族・社会との共生 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活のあり方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解し、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識する。 (2) 生活の自立 家族の食生活・衣生活・住生活に必要な知識と技術を習得し、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。 (3) 生活の創造 家庭経済や消費生活に関する基本的な知識を習得するとともに、現代に消費生活の課題について認識し、消費者として責任をもって行動できるようにする。 ・ホームプロジェクトと家庭クラブ活動 各自が生活の中から課題を見出し、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。				
評価の観点・ 評価の方法	①知識・技能 衣食住、消費生活などの分野を学習し、生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を身に付けている。 ②思考・表現・判断 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決のために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造している。 自己や家族、地域社会の中で、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫がみられる。 ③主体的に学習に取り組む態度 自立した生活者に必要な知識・技能を身に付け、地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。 実習では主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 定期考査、出席状況、授業態度（実習の取り組み、姿勢等も含む）、課題・学習プリント、ノートの提出状況。				
学習方法	・各ライフステージの理解を深めるとともに、実習を通して実践的な態度を養う。 ・現在の生活を振り返り、よりよくするために具体的な事例や体験的な学習を通して、協力して家庭や地域の生活を創造できるようになる。				
教科書・教材等	教科書「家庭基礎（自立・共生・創造）東京書籍 副教材 家庭基礎 学習ノート 東京書籍 各種プリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4 5 6	第 6 章 食生活をつくる	①食生活の課題について考える ②食事と栄養・食品 ③食生活の選択と安全 ④生涯の健康を見通した食事計画 ⑤調理の基礎 ⑥食生活の文化と知恵 ⑦日本の伝統的な文化	6 8 8	・ 5 大栄養素の種類と特徴を理解する。 ・ 食品添加物等を理解し、衛生面、安全面に気を付けて食生活を送ることができる。 ・ 日本の食文化への理解を深め、これからの食生活を創造することができる。 ・ 各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解する。	
7 8 9	第 3 章 子どもと共に育つ	①命を育む ②子どもの育つ力を知る ③子どもと関わる ④子どもとの触れ合いから学ぶ ⑤これからの保育環境	8 8 8	・ 子どもの心身の発達を知り、食生活・衣生活・健康管理・安全性について理解を深める。 ・ 子どもの遊びの意義を理解する。 ・ 親になることを考え、子育てのためにどのような環境が整えられるかを考えさせる。	
10 11	第 4 章 高齢社会を生きる	①超高齢大衆長寿社会の到来 ②高齢期の心身の特徴 ③ これからの超高齢社会	8 8	・ 加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・ 適切な支援の方法や関わり方を考え、行動できる。	
12 1 2	第 9 章 経済生活を営む	①情報の収集・比較と意思決定 ②購入・支払いのルールと方法 ③消費者の権利と責任 ④生涯の経済生活を見通す ⑤これからの消費生活と環境	8 8 8	・ 生涯を見通して経済生活をマネジメントする力を身につける。 ・ 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動がとれるよう、契約の重要性について理解する。 ・ 消費者の権利と責任について理解する。 ・ 経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて学ぶ。	
3	第 7 章 衣生活をつくる	①被服の役割を考える ②被服を入手する ③被服を管理する	8	・ 被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・ 被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につける。	
3	第 8 章 住生活をつくる	①住居の機能 ②安全で快適な住生活の計画	6	・ 住居の機能やライフステージごとの要住居を知り、豊かな住生活を創造できる。 ・ 環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を知る。	

教科名	商業	科目名	ソフトウェア活用	単位数	2単位
対象学年	第2学年（キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
学習内容の概要	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 （2）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 （3）情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
評価の観点・ 評価の方法	【知識及び技能】 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。 【思考力，判断力，表現力等】 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，企業活動におけるソフトウェアの活用に関心を持ち積極的に取り組もうとしている。				
学習方法	授業を大切にし、気づいたことや担当教員の話しなど、メモすることを習慣化すること 授業は常に問題意識をもち、積極的に取り組むこと				
教科書・教材等	実教出版「ソフトウェア活用」 実教出版「全商ビジネス文書実務検定試験模擬問題集2級」 実教出版「全商情報処理検定模擬問題集3級」				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	ビジネスにおけるソフトウェアの活用	社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおけるソフトウェアの活用の実例を学ぶ。	6	情報通信システムの特徴や処理方式の概要を理解し、ソフトウェアの意義や役割を考え、具体的な利用例を理解することができる。 ネット通信ビジネスにおける情報通信システムに関心を持ち、各種決済システムなどの、ソフトウェアの意義や役割を考えることができる。
5	情報通信ネットワークの活用	情報通信ネットワークの導入と運用	9	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、コンピュータやプリンタを適切に LAN やインターネットに接続するための基礎的な方法を学ぶ。情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術について理解している。
7	表計算ソフトウェアの活用	情報の集計と分析	25	表計算ソフトウェアを通し、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析する能力を身に付ける
11		オペレーションズ・リサーチ	25	表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎について理解する。
2	情報システムの開発	表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解	15	一般的に利用されているシステム開発モデルについて、各手法の趣旨やメリット、デメリットを理解し、適切な手法を選択することができる。 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において、どのモデルで開発を進めるかを、主体的に考え、思考することができる。

教科名	家庭	科目名	保育基礎	単位数	2 単位
対象学年	第2 学年（進学・キャリア 保育）		履修形態	必修	
科目の目標	保育の意義や方法, 子どもの発達と生活の特徴, 子どもの福祉や文化について理解し, 関連する技術を身につけ, 保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。				
学習内容の概要	1 章 子どもの保育 ①保育の意義 ②保育の方法 ③保育の環境 2 章 子どもの発達 ①子どもの発達の特性 ②子どものからだの発達 ③子どもの心の発達 3 章 子どもの生活 ①子どもの生活と養護 ②生活習慣の形成 ③健康管理と事故防止 4 章 子どもの文化 ①子どもの文化の意義と支える場 ②子どもの遊びと表現活動 5 章 子どもの福祉 ①子ども観 ②子どもの福祉 ③子育て支援 ※保育技術検定 4 級・3 級 ○造形表現技術 ○言語表現技術 ○家庭看護技術 に挑戦する。				
評価の観点・ 評価の方法	① 知識・技能 保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特性, 生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。 ② 思考・表現・判断 子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ, その解決をめざして思考を深め, 適切に判断し, 工夫し創造する能力を身につけている。 ③主体的に学習に取り組む態度 子どもの発達や保育への関心を持ち, 意欲的に学習に取り組み, 子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。 3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 定期考査、出席状況、授業態度（実習の取り組み、姿勢等も含む）、課題・学習プリント、ノートの提出状況、保育技術検定の取り組み状況、観察の記録や実習の記録、自己評価。				
学習方法	乳幼児期が人間の発達の基礎を培う重要な時期であることを理解し、生活の特徴や養護のあり方、生活習慣の形成などを乳幼児との触れ合いなどを通して実践的・体験的に学習する。				
教科書・教材等	「保育基礎」（実教出版） 「保育基礎 学習ノート」新課程版（実教出版） 全国高等学校家庭科保育技術検定 実施要項				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	1. 子どもの保育	・ 保育の意義 ・ 保育の方法 ・ 保育の環境	6	・ 保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気をつけていけばよいかなど考察ができる。 ・ 発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解する。	
5			8		
6	※保育検定4級	・ 保育検定4級 ○言語表現技術 ○造形表現技術 ○家庭看護技術	8	・ 童謡や物語の短い文章を正しく読んだり表現したりすることにより、幼児の発達段階にふさわしい言語表現の基礎技術を身につける。 ・ 折り紙を活用し、基礎技術を身につける。	
7			8	・ だっこ、授乳、検温など幼児の発達段階に応じた日常生活のお世話に関する基礎的技術を身につける。	
8					
9	2. 子どもの発達	・ 子どもの発達の特性 ・ 子どものからだの発達 ・ 子どもの心の発達	8	・ 発達には共通性や個別差があることを理解する。新生児期から乳幼児期の発達の過程とその生理的特徴について理解する。	
10			8	・ 心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について理解し、親子関係・人間関係のひろがりについて考える。	
11	※保育検定3級	・ 保育検定3級 ○言語表現技術 ○造形表現技術 ○家庭看護技術	8	・ 折り紙に描画の手法を加えて幼児の心を豊かに育む画面を構成する技術を身につける。	
12			6	・ 紙芝居を用いて幼児の発達段階にふさわしい演じ方、扱いができる。 ・ 乳児の発達段階に応じて衣服の着脱、日常生活のお世話ができる。	
1	3. 子どもの生活	・ 子どもの生活と養護 ・ 生活習慣の形成 ・ 健康管理と事故防止	6	・ 乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を理解する。	
2			8	・ 子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。	
3			6	・ 健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。 ・ 子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。	

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	2 単位
対象学年	第2 学年（進学・キャリア 栄養）		履修形態	必修	
科目の目標	食品の分類とその特徴、食品の表示、食品の加工と貯蔵などに関する知識と技術を習得させ、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を図る能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	第2章 栄養素と食品 3 食品とその特徴 ①穀類 ②いも類 ③砂糖類・甘味料 ④豆類 ⑤種実類 ⑥野菜類 ⑦果実類 ⑧きのこ類 ⑨海藻類 ⑩魚介類 ⑪肉類 ⑫卵類 ⑬牛乳・乳製品 ⑭油脂類 ⑮寒天・ゼラチン ⑯嗜好食品 ⑰調味料・香辛料 ⑱加工食品 ⑲健康食品 4 何をどれだけ食べる？ ①日本人の食事摂取基準 ②食品群別摂取量のめやす ③ライフステージと栄養 第3章 食品の選択と取り扱い 1 食品選択のコツ ①食品の選択 ②食品の衛生と安全 ③食の安全制度と情報 2 食品の衛生と安全 ①食中毒とは？ ②食中毒の種類 ③食中毒の予防 3 食の安全を考えて選ぼう ①食の安全を考える ②添加物（食品添加物） ③食の安全制度と情報				
評価の観点・ 評価の方法	①知識・技能 食品の分類とその特徴、食品の表示や加工食品、食中毒についてなど専門的な知識を習得している。 ②思考・表現・判断 多様化する食品や食生活に対応して、食品の選択と活用を適切に行い、食生活を充実・向上させる能力と実践的な態度を身に着ける。 毎日の食生活の中から課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫がみられる。 ③主体的に学習に取り組む態度 食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成するための知識や技術を習得し、実生活において実践しようとしている。 3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 定期考査、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況。				
学習方法	食品の分類とその特徴、食品の表示、食品の加工と貯蔵、食品の生産と流通などに関する専門的な知識と技術を習得させ、多様化する食品や食生活に対応して、食品の選択と活用を適切に行い、食生活を充実向上させる能力と実践的な態度を育てる。 食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成するための知識や技術を習得し、実生活で実践できる知識や技術を養う。				
教科書・教材等	「フードデザイン」 （教育図書）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4 5 6 7 8 9 10 11	3 食品とその特徴	①穀類 ②いも類 ③砂糖類・甘味料 ④豆類 ⑤種実類 ⑥野菜類 ⑦果実類 ⑧きのこ類 ⑨海藻類 ⑩魚介類 ⑪肉類 ⑫卵類 ⑬牛乳・乳製品 ⑭油脂類 ⑮寒天・ゼラチン ⑯嗜好食品 ⑰調味料・香辛料 ⑱加工食品 ⑲健康食品	6 8 8 8 8 8 8 8	・日常よく使用される食品を取り上げ、それぞれの食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解する。 ・食品の調理上の性質を踏まえた調理法を理解する。 ・加工食品の種類と特徴を理解する。 ・保健機能食品の位置づけを理解する。	
12 1	4 何をどれだけ食べる？	①日本人の食事摂取基準 ②食品群別摂取量のめやす ③ライフステージと栄養	6 6	・1日にどれくらいの栄養素が必要か理解する。 ・各ライフステージに必要な栄養について学び、自立した生活に向けて外食や中食・生活習慣病や妊娠期に必要な栄養素を理解する。	
1 2 3	1 食品選択のコツ 2 食品の衛生と安全 3 食の安全を考えて選ぶ	①食品の選択 ②食品の表示 ①食中毒とは？ ②食中毒の種類 ③食中毒の予防 ①食の安全を考える ②添加物（食品添加物） ③食の安全制度と情報	6 8 6	・より良い食品を選択するためにおおの食品の鑑別方法を知る。 ・食中毒の種類や特徴を知り、台所の衛生について理解を深め、実践できる力を養う。 ・遺伝子組み換え食品やクローン技術・ポストハーベスト農薬について理解し、食品表示などから情報を収集できる力を養う。 ・添加物の種類や特徴を知り、普段食している食品に含まれているか興味を持ち、情報を収集することができる。 ・食の安全制度について知る。	

教科名	家庭	科目名	栄養	単位数	2単位
対象学年	第2学年（進学キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	栄養とは何かを理解し、機能と代謝、消化吸収のしくみを理解する。 ライフステージにあわせた献立作成の修得				
学習内容の概要	第1章 栄養とは 1節 私たちと栄養 2節 人体の構成成分と栄養素 第6章 ライフステージ・ライフスタイルと栄養 1節 乳幼児の栄養 2節 青少年期の栄養 3節 成人期の栄養 4節 高齢期の栄養 5節 妊娠・授乳期の栄養 6節 労働・スポーツと栄養 第7章 病態と栄養 1節 栄養障害 2節 病態時の栄養 3節 食事療法 第8章 栄養と調理 1節 調理による栄養成分の変化 2節 調理と消化吸収率 3節 栄養面からみた望ましい献立 第9章 食生活の展望と健康増進 1節 日本人の栄養摂取 2節 食生活と健康増進 全国高等学校家庭科食物調理技術検定4級 全国高等学校家庭科食物調理技術検定3級				
評価の観点・ 評価の方法	(1) 知識・技能 栄養学の基礎となる基礎的な知識を身に着けている 授業中の取り組み状況 定期考査 (2) 思考・表現・判断 栄養や健康に関する動向や新しい情報に関心をよせ、情報収集を行うことができる。 ワークシート・レポート (3) 主体的に学習に取り組む態度 自己の課題を見つけ、その課題解決に向けて努力することができる。				
学習方法	・栄養素を理解し、代謝・吸収の過程を理解する。 ・ライフステージにあわせた献立を作成することができる。				
教科書・教材等	教科書「栄養」（実教出版）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	第1章 栄養とは	1節 栄養とは	3	・ 3大栄養素・5大栄養素を理解する。 ・ 人体と構成成分を理解する。	
5	全国高等学校家庭科食物調理技術検定4級		4	・ 検定実習（きゅうりの半月切り）	
6	第6章 ライフステージ・ライフスタイルと栄養	1節 乳幼児期の栄養	4	・ 各ライフステージの年齢別・性別の栄養摂取量の把握。	
7		2節 青少年期の栄養			
8		3節 成人期の栄養	4	・ 栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、用途に適した献立が作成できる。	
		4節 高齢期の栄養			
		5節 妊娠・授乳期の栄養			
		6節 労働・スポーツと栄養			
9	第2章 病態と栄養	1節 栄養障害	4	・ 栄養障害とは何かを理解し、偏りのある食事について改善計画を立てる。	
		2節 病態時の栄養			
		3節 食事療法			
10	全国高等学校家庭科食物調理技術検定3級		4	・ 技術検定3級筆記問題	
11			4	・ 全国高等学校家庭科食物調理3級 かきたま汁 鶏肉と野菜の煮物	
12	第3章 栄養と調理	1節 調理による栄養成分の変化	3	・ 栄養障害とは何かを理解し、偏りのある食事について改善計画を立てる。	
1	第4章 食生活の展望と健康増進	2節 調理と消化吸収率	3		
2		3節 栄養面から見た望ましい献立			
3		1節 日本人の栄養摂取	4		
		2節 食生活と健康増進	3		

教科名	家庭	科目名	保育技術	単位数	2 単位
対象学年	第2学年（進学キャリアコース）		履修形態	必修	
科目の目標	子どもにとって音楽とは、感動や感覚に訴えてくるものであることを理解し、身体を通して表現できる能力と態度を育てる。 保育実習を通して、子どもの発達の様子や保育者の指導の様子を理解する。 保育検定4級・3級に挑戦し、資格取得を目指す。				
学習内容の概要	※音楽・身体活動 （1）身体を使った表現 ア 手拍子によるリズム表現 イ ボディ・パーカッション （2）子どものために作られた歌 ア わらべうた イ 唱歌 ウ 童謡 エ あそび歌 （3）楽器演奏や伴奏 ア 学期 イ ピアノによる伴奏 （4）大人と一緒に楽しむ音楽 ア CDやDVD イ ミュージカル （5）楽典基礎 ※家庭科保育技術検定 ○音楽・リズム表現技術4級・3級 に挑戦する。				
評価の観点・ 評価の方法	①知識・技能 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや歌詞の特徴について理解するとともに、呼吸や発音の仕方、音楽の仕組みに気を付けて、声を合わせて歌ったり音楽をつくったりする技能を身に付ける。 ②思考・表現・判断 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、曲のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いたりする。 ③主体的に学習に取り組む態度 歌詞や曲の特徴を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。 定期考査、出席状況、授業態度（実習の取り組み、姿勢等も含む）、課題・学習プリント、ノートの提出状況。				
学習方法	教材を用いて、1人1台のピアノを使用し習熟度に合わせて個人練習を行う。 楽譜の読み方などの基礎的な知識と、歌唱力・リズム・音程・声量などの技術を総合的かつ実践的に学習する。				
教科書・教材等	バイエル				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	1. 子どものために作られた歌	・ 歌唱 (童謡・わらべうた)	6	・ 子どもにとって音楽とは、感情や感覚に訴えてくるものであることを理解する。 ・ 子どもに歌いかけたり、共に歌ったりすることの重要性について考える。	
5	2. 身体を使った表現	・ リズム打ち ・ 手拍子を用いた歌唱	8	・ 子どもは、歌うことと身体を動かすことは切り離すことができないことを理解する。	
6		・ リズム・アンサンブル (ボディ・パーカッション)	8	・ 身体を通して表現することが心身の調和のとれたリズムカルな動きを作るとともに創造力を育てるためにも大切であることを理解する。	
7		・ 保育検定4級 ○音楽・リズム表現技術	8	・ 歌唱の基礎的な表現技術を検定する。	
8			8	・ 発声に無理がなく、正しい音程とリズム、で相手に歌いかける技術を身につける。	
9	3. 楽器演奏	・ ピアノ実技		・ バイエル教則本を練習する。(4級検定課題)	
10			8	・ 弾く速さが安定維持でき、良いテンポで演奏できるようにする。	
11		・ 保育検定3級 ○音楽・リズム表現技術	6		
12	4. 大人と一緒に楽しむ音楽	・ ミュージカルの鑑賞	6	・ ピアノ演奏と歌について、速さが安定維持でき、心地よいテンポで相手に音楽を伝える技術を身につける。	
1			6		
	5. 楽典基礎	・ 基礎的な音楽通論			
2			8		
3			6		

教科名	福祉	科目名	こころとからだの理解	単位数	2単位
対象学年	第2学年（進学・キャリア 医療）		履修形態	必修	
科目の目標	高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を修得させ、高齢者の生活の質を高めると共に、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	第1編 こころとからだの基礎的理解 第1章 こころの理解 第2章 からだのしくみの理解 第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 第1章 生活動作に関するこころとからだのしくみ 第2章 生活場面の変化に関するこころとからだのしくみ 第3編 発達と老化の理解 第1章 人間の成長と発達 第2章 老年期の理解と日常生活 第3章 高齢者と健康 第4編 認知症の理解 第1章 認知症をとりまく状況 第2章 認知症の基礎的理解 第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活 第4章 認知症と地域サポート 第5編 障害の理解 第1章 障害の基礎的理解 第2章 生活機能障害の理解 第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活 第4章 障害と地域生活支援				
評価の観点・ 評価の方法	（1） 知識・技能 こころとからだの基礎的な知識を意欲的に学習し、実践に活用できる態度を身につけることができる。 （2） 思考・表現・判断 自立生活を支援するために必要なこころとからだの関係について理解する。 （3） 主体的に学習に取り組む態度 自己の課題を見つけ、その課題解決に向けて努力することができる。 *出席状況（出席 4/5 以上を原則とする） *授業態度・実技 *課題提出・学習プリントの提出状況提出物				
学習方法	・教科書の内容理解とともに、実習を通して実践的な態度を身に着ける。 ・日々の生活から課題を見つけ出し、解決方法を模索する。				
教科書・教材等	教科書「こころとからだの理解」（実教出版）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	第1編 こころとからだ の基礎的理解	第1章 こころの理解	3	・健康をどのようにとらえるべきかを考える。人間の欲求や尊厳を理解する。	
		第2章 からだのしくみの理解		・基本的なからだのしくみについて理解する。	
5	第2編	第1章 生活動作に関するところと	4	・衣服の着脱、整容、口腔の清潔、移動を	
6	生活支援に必要なところとからだのしくみの理解	からだのしくみ	4	安全・安楽に支援するための心身の構造を理解する。	
		第2章 生活場面の変化に関するところとからだのしくみ	4	・身の回りの動作を安全・安楽に支援するための、心身の構造を理解する。	
7			4	・食事の摂取を安全・安楽に支援するための、心身の構造を理解する。	
8					
9	第3編 発達と老化の理解	第1章 人間の成長と発達	4	・発達とは何かを理解する。発達段階とは何かを理解する。	
		第2章 老年期の理解と日常生活	4	・人間の発達と発達段階についての、様々な理論家の定義にふれる。	
10		第3章 高齢者と健康	4		
11		第1章 認知症をとりまく状況	3	・認知症高齢者の現状について理解する。	
12	第4編 認知症の理解	第2章 認知症の基礎的理解		・認知症の症状、診断、治療等について理解する。	
		第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活	3	・認知症の種類とそれぞれの特徴について理解する。	
1		第4章 認知症と地域サポート	4		
2	第5編 障害の理解	第1章 障害の基礎的理解		・障害者福祉の基本理念となる、ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて学ぶ。	
		第2章 生活機能障害の理解		・視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害のある人に対して医学的理解・心理的理解・生活の理解・介護上の留意点を学ぶ。	
3		第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活	3		
		第4章 障害と地域生活支援			

教科名	福祉	科目名	コミュニケーション技術	単位数	2単位
対象学年	第2学年進学・キャリア（医療）		履修形態	必修	
科目の目標	福祉実践におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、コミュニケーションの基本技術、サービス利用者や家族とのコミュニケーション方法を身につける。				
学習内容の概要	第1編 福祉実践におけるコミュニケーション 第1章 コミュニケーションの意義と役割 第2章 コミュニケーションの基本技術 第2編 サービス利用者や家族との関係づくり 第1章 サービス利用者や家族との関係づくり 第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション 第3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション 第1章 記録 第2章 チームによる連携				
評価の観点・ 評価の方法	①知識・技能 教科書を基本として「やってみよう」「考えてみよう」や編末問題など福祉実践に必要な知識を理解し、関連する技術を身につけている。 ②思考・表現・判断 編末問題などで学習の理解到達度を確認し、ワークシートなどを活用しながら学習したことを自らの言葉で表現できる。またコミュニケーションに関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に理解する力を身につけている。 ③主体的に学習に取り組む態度 福祉実践における対人援助や人間関係の構築のため、福祉の見方・考え方を働かせ、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。 3つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 定期考査、出席状況、授業態度（実習の取り組み、姿勢等も含む）、課題・学習プリント、ノートの提出状況。				
学習方法	・教科書の学習を基本として、必要な支援の方法について講義をした上で実践的・体験的な学習活動をする。 ・利用者主体の生活ができるよう、利用者の状態にあった根拠に基づいた安全・安楽な介護実践を行うための知識・技術を習得する。 ・個人ワークやグループワークでは、ワークシートを活用しながら自身の課題を明確にし、その解決を図る。また、考えてみようや編末問題のまとめてみようなどを実践する活動によって、主体的に学習に取り組む態度を養う。				
教科書・教材等	教科書「コミュニケーション技術」（実教出版） ワークプリント				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	第 1 編 福祉実践におけるコミュニケーション	・コミュニケーションの意義と役割	6	・自己理解、他者理解や人間関係におけるコミュニケーションの意義や役割について理解する。	
5		・コミュニケーションの基本技術 言語・非言語コミュニケーション	8	・言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの特徴について理解する。 ・受容と共感について理解し、相手の話を聞く時の態度や方法を学ぶ。 ・対人援助を行う際の具体的なコミュニケーションを知る。	
6			8	・意思決定を促すためにどのような点に注意したらよいか考える。	
7	第 2 編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	・サービス利用者や家族との関係づくり	8	・利用者や家族とのコミュニケーション、信頼関係を形成することの大切さや、支援の方法を理解する。	
8		・サービス利用者に応じたコミュニケーション		・高齢者の特性を理解する	
9		視覚障害 聴覚障害 言語障害 認知症等	8	・加齢による身体的変化、心理的变化、社会的変化を理解する。	
10			8		
11		・手話を知ろう	8	・手話を話すときの留意点を知る。 ・簡単な手話で会話をしてみる	
12		・点字の基本	6	・点字の読み方、書き方について理解する ・身近にある点字を探してみる。	
1			6		
2	第 3 編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション	・記録	8	・認知症の特徴と適切なコミュニケーションの方法について理解する。	
3		・チームによる連携	6	・介護記録の重要性と記録の役割や機能について理解する。	

教科名	キャリア教育	科目名	BU(学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第2学年(キャリアコース 就職)		履修形態	必修	
科目の目標	将来、地域社会を担っていく上で必要となる一般教養、論理的思考力、探求心、問題分析能力、問題解決能力などを身に付けるとともに、自分自身の生き方を考え、主体的に学習する態度を育成する。				
学習内容の概要	○一般教養 1. 人文科学(言語分野が中心) 同意語、反意語、二語の関係、語句の意味、語句の用法、文章理解など 2. 社会科学 歴史、地理、政治、経済、時事問題 3. 自然科学(数的分野が中心) 小数・分数、四則演算、割合と比、金銭計算、推論、確率など ○郷土理解 鳥取県の地理、歴史、産業などについて理解を深める。 ○表現力 エッセイ(自らがテーマを設定し、小論文を作成し、発表をおこなう)				
評価の観点・ 評価の方法	①関心・意欲・態度 ・自立した社会人として生きていくために必要な能力を身に付け るために主体的に学び、理解しようとしているか ②知識・理解 ・一般教養や論理的思考力が身に付いたか ③技能・表現 ・習得した知識をもとに自分の考え方を適切に表現できるか。 定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	①興味・関心を持って授業に取り組む。 ②日々のできごとに関心を持ち、自分で考える習慣をつける。				
教科書・教材等	○自主作成プリント ○『リテラス検定2級 ワークブック』				

年 間 授 業 計 画				
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	一般教養（人文科学） ※特に言語分野 『リテラス検定 ワークブック』	同意語	6	○日常生活の中で目にしたり、会話や文章の中で使用したりするような言葉の意味や用法などを正確に理解する。 ○評論文や小説の文章を正確に読み、味わう。 ○漢字の読み書きに関して、高校卒業レベルまでの理解を目指す。
5		反意語 二語の関係 語句の意味 語句の用法 文章整序 文章理解	8	
6		漢字の読み 漢字の書き 思想・文化・歴史	8	
7			8	
8	一般教養（社会科学） 『リテラス検定 ワークブック』	歴史	8	○時事問題にも気を配りながら、社会のしくみや社会参加の在り方について考える。
9		地理 政治 経済 時事問題		
10				
11	一般教養（自然科学） ※特に数的分野	四則演算 小数・分数 割合と比 損益計算 推論 図形	8	○基本的な計算力や論理的思考力を身に付ける
12			6	
1		鳥取の地理 鳥取の歴史 鳥取の文化 鳥取の産業 鳥取の自然	6	
2	郷土理解		8	○郷土である鳥取の特色を多様な角度から眺め、分析し、深く理解することで、郷土愛を深め、自らの生き方を見直すきっかけをつかむ
3		1年の学びを振り返り、自分でテーマを決定	6	
	エッセイおよびプレゼンテーション			○学習のまとめとして、研究発表を行う。